

令和6年度（2024年度）シラバス

1 科目概要

教科 国語	科目 現代の国語	担当者（主） 脇本 将吾	履修年次（今年度） 1年	単位数（今年度） 2単位
履修対象 全員必履修	前学年からの 継続履修 -	次学年での 継続履修 有		
教材（出版社）	教科書 精選 現代の国語（三省堂）	副教材		
定期考査の実施 ※ 変更可能性あり	1学期中間 ※5月中旬あたり 有	1学期期末 ※7月上旬あたり 有	2学期中間 ※10月中旬あたり 有	2学期期末 ※12月上旬あたり 有
学年末 ※3年：1月末 他：2月中旬あたり 有				
科目の目標 下記の（1）（2）（3）を目標とする。				
知識及び技能 （1）実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	思考力、判断力、表現力等 （2）論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	学びに向かう力、人間性等（全単元共通） （3）言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		
具体的な評価の方法 定期考査・授業中の言語活動・アウトプットや成果物それぞれで評価。				
知識、技能 定期考査を中心に評価	思考、判断、表現 授業の言語活動を中心に評価	主体的に学習に取り組む態度 アウトプット・成果物を中心に評価		
担当者から受講上のアドバイス 「話す」「聞く」「書く」といったアウトプットを中心に行う科目です。				

2 年間指導計画※下図参照

学習時期（予定）	学習単元	学習単元内の内容のまとめ	備考
4月～5月	四 言葉を見つめる	「辞書は生きている」	
6月～7月	四 言葉を見つめる	「アガルとノボル」	
9月～11月	六 思考の枠組みを広げる	「「見える文化」／「見えない文化」	
12月	八 マイクロディベート	「マイクロディベートとは」 「マイクロディベートをやってみよう」	
1月～3月	五 ワールド・カフェ	「大切な会話—ワールド・カフェへの招待」 「ワールド・カフェをやってみよう」	

令和6年度（2024年度）シラバス

1 科目概要

教科 国語	科目 言語文化	担当者(主) 脇本 将吾	履修年次(今年度) 1年	単位数(今年度) 1単位
履修対象 全員必履修	前学年からの 継続履修 -	次学年での 継続履修 有		
教材(出版社)	教科書 精選 言語文化(三省堂)	副教材		
定期考査の実施 ※変更可能性あり	1学期中間 ※5月中旬あたり 有	1学期期末 ※7月上旬あたり 有	2学期中間 ※10月中旬あたり 有	2学期期末 ※12月上旬あたり 有
学年末 ※3年:1月末 他:2月中旬あたり 有				
科目の目標 下記の(1)(2)(3)を目標とする。				
知識及び技能 (1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	思考力、判断力、表現力等 (2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	学びに向かう力、人間性等(全単元共通) (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		
具体的な評価の方法 定期考査・授業中の言語活動・アウトプットや成果物それぞれで評価。				
知識、技能 定期考査を中心に評価	思考、判断、表現 授業の言語活動を中心に評価	主体的に学習に取り組む態度 アウトプット・成果物を中心に評価		
担当者から受講上のアドバイス 古典(古文や漢文)をはじめとする文章を「読む」ことが中心となる科目です。				

2 年間指導計画(※下図参照)

学習時期(予定)	学習単元	学習単元内の内容のまとめ	備考
4月～5月	言の葉の森に分け入る	「日本語の表記法」	
6月～7月	古文編・古文入門	「古文の世界へ」 『枕草子』『春はあけぼの』	
9月～12月	漢文編・漢文入門	「漢文の世界へ」 「成句・格言を読む」	
1月～3月	近代以降の文章編・短歌と俳句	いくたびも-俳句十六句-	

令和6年度（2024年度）シラバス

1 科目概要

教科 地理歴史	科目 歴史総合	担当者(主) 甲斐田 真妃	履修年次(今年度) 1 年	単位数(今年度) 2 単位	
履修対象 全員必履修	前学年からの 継続履修 -	次学年での 継続履修 -			
教材(出版社)	教科書 わたしたちの歴史 日本から世界へ(山川出版社)	地図帳 標準高等地図(帝国書院)			
定期考査の実施 ※ 変更可能性あり	1学期中間 ※ 5月中旬あたり 有	1学期期末 ※ 7月上旬あたり 有	2学期中間 ※ 10月中旬あたり 有	2学期期末 ※ 12月上旬あたり 有	学年末 ※ 3年: 1月末 他: 2月中旬あたり 有
科目の目標 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。					
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等(全単元共通)			
近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。			
具体的な評価の方法 定期考査や授業で使用するプリント、授業での活動(レポート、プレゼン作成、発表、協議等)を評価します。					
知識、技能	思考、判断、表現	主体的に学習に取り組む態度			
<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 小テスト 授業プリント 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 授業プリント 授業中の取組(レポート・発表・協議) 	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の取組み(レポート・発表・協議) 自己評価、振り返り 			
担当者から受講上のアドバイス 評価は自分自身の学習の過程や成果を確認するためになされるものです。このことをしっかり確認し、不十分な点があればその後の学習につなげるようにしましょう。そのためにも、返却されたテストやレポート、自己評価などの見直しを徹底しましょう。					

2 年間指導計画

学習時期(予定)	学習単元	学習単元内の内容のまとめ(例)	備考
4月～7月	近代化と私たち	産業革命、アヘン戦争、開国、市民革命、明治維新、富国強兵と文明開化、大日本帝国憲法、日清戦争、日本の産業革命、帝国主義、日露戦争と韓国併合	
9月～12月	国際秩序の変化や大衆化と私たち	大衆運動、第一次世界大戦、ロシア革命、社会運動、国際協調、アジアの民族運動、大量生産・大量消費、世界恐慌、ファシズム、第二次世界大戦、冷戦開始	
1月～3月	グローバル化と私たち	第三世界、冷戦の展開、55年体制と安保闘争、高度経済成長の光と影、ベトナム戦争とアメリカ、経済大国、社会主義停滞と新自由主義、冷戦終結、冷戦後の地域紛争、地域統合、世界と日本の諸課題	

(1) **単元：近代化と私たち**

<u>単元の目標</u>		
<u>知識及び技能</u>		<u>思考力、判断力、表現力等</u>
<ul style="list-style-type: none"> ○諸資料を活用して情報を読み取ったりまとめたりする技能を習得 ○18世紀のアジアや日本における生産と流通、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に、18世紀のアジアの経済と社会を理解すること。 ○産業革命と交通・通信手段の革新、中国の開港と日本の開国などを基に、工業化と世界市場の形成を理解する。 ○18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向、日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に、立憲体制と国民国家の形成を理解する。 ○列強の進出と植民地の形成、日清・日露戦争などを基に、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する。 ○現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解する。 		<ul style="list-style-type: none"> ○人々の生活や社会の在り方が近代化に伴い変化したことについて考察するための問いを表現する。 ○18世紀のアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、18世紀のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ○産業革命の影響、中国の開港と日本の開国の背景とその影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ○国民国家の形成の背景や影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ○帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ○事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、主題について多面的・多角的に考察し、表現する
<u>観点別評価規準</u>		
<u>知識、技能</u>	<u>思考、判断、表現</u>	<u>主体的に学習に取り組む態度</u>
<ul style="list-style-type: none"> ①資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けている。 ②18世紀のアジアや日本における生産と流通、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に、18世紀のアジアの経済と社会を理解している。 ③産業革命と交通・通信手段の革新、中国の開港と日本の開国などを基に、工業化と世界市場の形成を理解している。 ④18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向、日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に、立憲体制と国民国家の形成を理解している。 ⑤列強の進出と植民地の形成、日清・日露戦争などを基に、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解している。 ⑥現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ①近代化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現している。 ②18世紀のアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、18世紀のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ③産業革命の影響、中国の開港と日本の開国の背景とその影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ④国民国家の形成の背景や影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、政治変革の 	<ul style="list-style-type: none"> ①近代化と私たちについて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。

特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。

⑤帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。

⑥事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、主題について多面的・多角的に考察し、表現している。

教材範囲		内容のまとめ I				学習時期 (予定)		配当時間	
教科書 18～63 ページ		開国から日露戦争へ				7～9 月		1 6 時間	
学習活動、学習のねらい、学習形式等	観点別学習評価							備考	
	規準	知、技 評価方法	規準	思、判、表 評価方法	規準	態度 評価方法			
近代化への問い	①	定期考査 授業プリント	①	定期考査 課題集 まとめ	①	まとめ 記述 授業中の 活動			
18 世紀の世界とアジア	②③		②		①				
産業革命	③⑥		②③		①				
アヘン戦争と日本	②		②⑤		①				
日本の開国	②③		②		①				
日本開国期の国際情勢	②③		②③		①				
開国後の日本社会	②③		②③		①				
市民革命と国民統合	④⑤		④		①				
明治維新	④⑤		④		①				
富国強兵と文明開化	④⑤		④		①				
日本の明治初期の外交	④⑤		④⑤		①				
大日本帝国憲法の制定	④⑤		④⑤		①				
日本の産業革命と日清戦争	④⑤		⑤⑥		①				
帝国主義	④⑤		⑤⑥		①				
日露戦争と韓国併合	④⑤		⑤⑥		①				

(2) 単元：国際秩序の変化や大衆化と私たち

単元の目標	
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
<ul style="list-style-type: none"> ○資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付ける。 ○第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解する。 ○大衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシーと政党政治、大量消費社会と大衆文化、教育の普及とマスメディアの発達などを基に、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解する。 ○世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策などを基に、国際協調体制の動揺を理解する。 ○第二次世界大戦の展開、国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などを基に、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。 ○現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現する。 ○第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、日本の参戦の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、関連付けたりするなどして、第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ○第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、関連付けたりするなどして、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ○経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ○第二次世界大戦の推移と第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ○事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、主題について多面的・多角的に考察し、表現する。

観点別評価規準		
知識、技能	思考、判断、表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ①資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けている。 ②第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解している。 ③大衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシーと政党政治、大量消費社会と大衆文化、教育の普及とマスメディアの発達などを基に、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解している。 ④世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策などを基に、国際協調体制の動揺を理解している。 ⑤第二次世界大戦の展開、国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などを基に、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ①国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現している。 ②第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、日本の参戦の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ③第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ④経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどし 	<ul style="list-style-type: none"> ①国際秩序の変化や大衆化と私たちについて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。

⑥現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解している。

て、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。

⑤第二次世界大戦の推移と第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。

⑥事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、主題について多面的・多角的に考察し表現している。

教材範囲 教科書 64～115 ページ		内容のまとめり I 世界の一等国から連合軍の占領下へ				学習時期 (予定) 9～12 月	配当時間 17 時間
学習活動、学習のねらい、学習形式等	観点別学習評価						備考
	規準	知、技 評価方法	規準	思、判、表 評価方法	規準	態度 評価方法	
国際秩序の変化や大衆化への問い	①	定期考査 授業プリント	①	定期考査 課題集 まとめ	①	まとめ 記述 授業中の 活動	
大衆運動の芽生え	②		②		①		
第一次世界大戦	②		②		①		
第一次世界大戦と日本	②		②		①		
ロシア革命とその影響	②		③		①		
社会運動の広がり	③		③		①		
国際協調	②⑥		③⑥		①		
アジアの民族運動	③		③		①		
大量生産・大量消費社会	③⑥		③⑥		①		
世界恐慌	④		④		①		
独裁勢力の台頭	④		④		①		
日本のアジア侵出	④		④		①		
第二次世界大戦	⑤		⑤		①		
第二次世界大戦と日本	⑤		⑤		①		
第二次世界大戦の終結	⑤		⑤		①		
戦後国際秩序	⑤		⑤		①		
冷戦の始まり	⑤		⑤		①		
日本の戦後改革と日本国憲法	⑤		⑤		①		
日本の独立	⑤		⑤		①		

(3) 単元：グローバル化と私たち

単元の目標		
<p style="text-align: center;">知識及び技能</p> <p>○資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けること。</p> <p>○脱植民地化とアジア・アフリカ諸国、冷戦下の地域紛争、先進国の政治の動向、軍備拡張や核兵器の管理などを基に、国際政治の変容を理解する。</p> <p>○西ヨーロッパや東南アジアの地域連携、計画経済とその波及、日本の高度経済成長などを基に、世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解する。</p>	<p style="text-align: center;">思考力、判断力、表現力等</p> <p>○グローバル化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現すること。</p> <p>○地域紛争の背景や影響、冷戦が各国の政治に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>○冷戦が各国経済に及ぼした影響、地域連携の背景と影響、日本の高度経済成長の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、冷戦下の世界経済や地域連携の特徴、経済成長による生活や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p>	
観点別評価規準		
<p style="text-align: center;">知識、技能</p> <p>①資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けている。</p> <p>②脱植民地化とアジア・アフリカ諸国、冷戦下の地域紛争、先進国の政治の動向、軍備拡張や核兵器の管理などを基に、国際政治の変容を理解している。</p> <p>③西ヨーロッパや東南アジアの地域連携、計画経済とその波及、日本の高度経済成長などを基に、世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解している。</p> <p>④石油危機、アジアの諸地域の経済発展、市場開放と経済の自由化、情報通信技術の発展などを基に、市場経済の変容と課題を理解している。</p> <p>⑤冷戦の終結、民主化の進展、地域統合の拡大と変容、地域紛争の拡散とそれへの対応などを基に、冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解している。</p> <p>⑥歴史的経緯を踏まえて、現代的な諸課題を理解している。</p>	<p style="text-align: center;">思考、判断、表現</p> <p>①グローバル化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現している。</p> <p>②地域紛争の背景や影響、冷戦が各国の政治に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③冷戦が各国経済に及ぼした影響、地域連携の背景と影響、日本の高度経済成長の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、冷戦下の世界経済や地域連携の特徴、経済成長による生活や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>④アジアの諸地域の経済発展の背景、経済の自由化や技術革新の影響、資源・エネルギーと地球環境問題が世界経済に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>⑤冷戦の変容と終結の背景、民主化や地域統合の背景と影響、地域紛争の拡散の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p>	<p style="text-align: center;">主体的に学習に取り組む態度</p> <p>①グローバル化と私たちについて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p>

⑥事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較し相互に関連付けたり、現代的な諸課題を展望したりするなどして、主題について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。

教材範囲 教科書 116～159 ページ		内容のまとめ I 冷戦下の世界から現代へ				学習時期 (予定) 1～3 月		配当時間 1 6 時間	
学習活動、学習のねらい、学習形式等	観点別学習評価							備考	
	知、技		思、判、表		態度				
	規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法			
グローバル化への問い	①		①		①				
第三世界の登場	②		②		①				
冷戦の固定化と「雪どけ」	②		②		①				
冷戦の展開	②		②		①				
55 年体制と安保闘争	②		②		①				
高度経済成長の光と影	③⑥		③⑥		①				
ベトナム戦争とアメリカ	②	定期考査 授業プリント	②	定期考査 課題集 まとめ	①	まとめ 記述 授業中の 活動			
経済構造の変化	④		③		①				
日本の経済大国化	③④		③④		①				
アジアの経済成長	④		④		①				
社会主義の停滞と新自由主義	③④		③④		①				
冷戦の終結	⑤		⑤		①				
冷戦後の地域紛争	⑤		⑤⑥		①				
地域統合	⑤		⑤⑥		①				
現代世界の諸課題	⑥		⑥		①				
日本の諸課題	⑥		⑥		①				

令和6年度（2024年度）シラバス

1 科目概要

教科 数 学	科目 数 学 I		担当者 平山 光一	履修年次（今年度） 1 年	単位数（今年度） 3 単位
履修対象 全員必履修	前学年からの 継続履修 -	次学年での 継続履修 有			
教材（出版社）	教科書 新 高校の数学 I（数研出版）	副教材 新 高校の数学 I 対応 ポイントノート数学 I（数研出版）			
定期考査の実施 ※ 変更可能性あり	1 学期中間 ※ 5 月中旬あたり 有	1 学期期末 ※ 7 月上旬あたり 有	2 学期中間 ※ 1 0 月中旬あたり 有	2 学期期末 ※ 1 2 月上旬あたり 有	学年末 ※ 3 年：1 月末 他：2 月中旬あたり 有
科目の目標 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。					
知識及び技能 数と式、2 次関数についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的に表現・処理する技能を身に付ける。		思考力、判断力、表現力等 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、数量関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力を養う。		学びに向かう力、人間性等（全単元共通） 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、学習した内容を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度を養う。	
具体的な評価の方法 3 つの観点について、それぞれ次に示す方法で評価する。					
知識、技能 ・ 定期考査および授業中の小テスト ・ 学期末の計算テスト		思考、判断、表現 ・ 定期考査および授業中の小テスト		主体的に学習に取り組む態度 ・ 授業中の学習態度や積極性 ・ 提出物の提出状況やアンケートへの回答状況 ・ 小テストの受査状況 ・ 学習教材や成果物の管理状況 ・ 学習内容等の振り返り状況	
担当者から履修上のアドバイス 1 授業には、「教科書」「『数学 I』専用ノート」「ポイントノート」「タブレット端末」「筆記用具」が必要です。 2 授業中に指名された際、発言や板書等の正誤は、一切評価の対象になりません。積極性重視です。 3 教科書には、中学校数学の振り返りの内容が多く収録されています。自分 1 人の学習でも取り組みやすいものですので、しっかり勉強し、わからないところは遠慮なく担当者に質問しましょう。予習は必要ありません。 4 ポイントノートには直接書き込みで解き、必ず○つけや解き直しまで済ませて提出しましょう。高評価のためのポイントは、正答の数ではなく、自分の数学力向上のために取り組もうとしたり、解けなかった問題を解けるようになろうとする姿勢がみられるかです。評価の程度は生徒本人に通知しません。解き終わった問題の解き直しを希望する場合は、担当者のポイントノートのコピーを差し上げるので、いつでも申し出てください。 5 提出できない状態だったり、無断で提出期限を過ぎた提出物は一切受け付けません。また、提出物への取り組み状況に不誠実さが見受けられた場合（例えば、解けない問題の解答を黒で写して赤で○をつけ、自力で解けたかのようにみせた）、未提出とみなすことがあります。そのことは生徒本人に通知しません。					

2 年間指導計画

学習時期（予定）	学習単元	学習単元内の内容のまとめり	備 考
年度当初～1 0 月上旬	第 1 章 数と式	第 1 節 数と式の計算 第 2 節 1 次不等式	この科目は次学年で継続履修されるので、「第 3 章 図形と計量」「第 5 章 データの分析」は 2 年次で学習する。
1 0 月中旬～2 月中旬	第 2 章 2 次関数	第 1 節 2 次関数のグラフ 第 2 節 2 次関数の値の変化	
2 月下旬～年度末	第 4 章 集合と命題	集合と命題	

(1) **単元：第1章 数と式**

<p><u>単元の目標</u></p> <p>知識及び技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数を実数まで拡張する意義を理解し、簡単な無理数の四則計算をすること。 ・2次の乗法公式及び因数分解の公式の理解を深めること。 ・不等式の解の意味や不等式の性質について理解し、1次不等式の解を求めること。 		<p>思考力、判断力、表現力等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題を解決する際に、既に学習した計算の方法と関連付けて、式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりすること。 ・不等式の性質を基に1次不等式を解く方法を考察すること。 			
<p><u>観点別評価規準</u></p> <table border="1"> <tr> <td> <p>知識、技能</p> <ol style="list-style-type: none"> ①整数や小数の他、累乗の形の数、分数を含む四則計算ができる。 ②文字式の積を適切にかき表せる。 ③整式周辺の数学用語を理解し、係数や次数が答えられる。 ④同類項を理解し、これをまとめられる。また、降べきの順、昇べきの順を理解している。 ⑤多項式の加法、減法ができる。 ⑥指数法則を用いた計算ができる。 ⑦多項式の乗法ができる。 ⑧展開の公式を理解し、これを用いて計算できる。 ⑨因数分解の公式を理解し、これを用いて計算できる。 ⑩根号を含む計算、分母の有理化ができる。 ⑪絶対値を理解し、その計算ができる。 ⑫有理数が細かく分類できる。 ⑬絶対値が求められる。 ⑭1次方程式が解ける。 ⑮値の範囲が図示できる。 ⑯1次不等式が解ける。 ⑰連立不等式が解ける。 </td> <td> <p>思考、判断、表現</p> <ol style="list-style-type: none"> ①複雑な計算の過程を論理的に書き示すことができる。 ②言葉で示された数量の関係が数式で書き表せる。 ③整式を見て、用いるべき因数分解の公式が判断できる。 ④たすきがけを用いた因数分解ができる。 ⑤展開や因数分解の工夫について、言葉で説明できる。 ⑥平方根の意味を説明できる。 ⑦数の分類について説明できる。 ⑧移項の意味を説明できる。 ⑨不等号の反転する場合について説明できる。 ⑩連立不等式の解を示すための数直線の図がかける。 </td> <td> <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>※提出物の提出状況やアンケートへの回答状況、学習内容等の振り返り状況等により、日常的に評価する。</p> </td> </tr> </table>			<p>知識、技能</p> <ol style="list-style-type: none"> ①整数や小数の他、累乗の形の数、分数を含む四則計算ができる。 ②文字式の積を適切にかき表せる。 ③整式周辺の数学用語を理解し、係数や次数が答えられる。 ④同類項を理解し、これをまとめられる。また、降べきの順、昇べきの順を理解している。 ⑤多項式の加法、減法ができる。 ⑥指数法則を用いた計算ができる。 ⑦多項式の乗法ができる。 ⑧展開の公式を理解し、これを用いて計算できる。 ⑨因数分解の公式を理解し、これを用いて計算できる。 ⑩根号を含む計算、分母の有理化ができる。 ⑪絶対値を理解し、その計算ができる。 ⑫有理数が細かく分類できる。 ⑬絶対値が求められる。 ⑭1次方程式が解ける。 ⑮値の範囲が図示できる。 ⑯1次不等式が解ける。 ⑰連立不等式が解ける。 	<p>思考、判断、表現</p> <ol style="list-style-type: none"> ①複雑な計算の過程を論理的に書き示すことができる。 ②言葉で示された数量の関係が数式で書き表せる。 ③整式を見て、用いるべき因数分解の公式が判断できる。 ④たすきがけを用いた因数分解ができる。 ⑤展開や因数分解の工夫について、言葉で説明できる。 ⑥平方根の意味を説明できる。 ⑦数の分類について説明できる。 ⑧移項の意味を説明できる。 ⑨不等号の反転する場合について説明できる。 ⑩連立不等式の解を示すための数直線の図がかける。 	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>※提出物の提出状況やアンケートへの回答状況、学習内容等の振り返り状況等により、日常的に評価する。</p>
<p>知識、技能</p> <ol style="list-style-type: none"> ①整数や小数の他、累乗の形の数、分数を含む四則計算ができる。 ②文字式の積を適切にかき表せる。 ③整式周辺の数学用語を理解し、係数や次数が答えられる。 ④同類項を理解し、これをまとめられる。また、降べきの順、昇べきの順を理解している。 ⑤多項式の加法、減法ができる。 ⑥指数法則を用いた計算ができる。 ⑦多項式の乗法ができる。 ⑧展開の公式を理解し、これを用いて計算できる。 ⑨因数分解の公式を理解し、これを用いて計算できる。 ⑩根号を含む計算、分母の有理化ができる。 ⑪絶対値を理解し、その計算ができる。 ⑫有理数が細かく分類できる。 ⑬絶対値が求められる。 ⑭1次方程式が解ける。 ⑮値の範囲が図示できる。 ⑯1次不等式が解ける。 ⑰連立不等式が解ける。 	<p>思考、判断、表現</p> <ol style="list-style-type: none"> ①複雑な計算の過程を論理的に書き示すことができる。 ②言葉で示された数量の関係が数式で書き表せる。 ③整式を見て、用いるべき因数分解の公式が判断できる。 ④たすきがけを用いた因数分解ができる。 ⑤展開や因数分解の工夫について、言葉で説明できる。 ⑥平方根の意味を説明できる。 ⑦数の分類について説明できる。 ⑧移項の意味を説明できる。 ⑨不等号の反転する場合について説明できる。 ⑩連立不等式の解を示すための数直線の図がかける。 	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>※提出物の提出状況やアンケートへの回答状況、学習内容等の振り返り状況等により、日常的に評価する。</p>			

<u>教材範囲</u> 教科書 P. 8～39	<u>内容のまとめり I</u> 第1節 数と式の計算	<u>学習時期(予定)</u> 年度当初～1学期末	<u>配当時間</u> 36時間
----------------------------	---------------------------------------	------------------------------	---------------------

<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>	<u>観点別学習評価</u>				<u>態度</u>		<u>備考</u>
	規準	知、技 評価方法	規準	思、判、表 評価方法	規準	評価方法	
1. 計算の基本	①	定期検査および小テスト	①	定期検査および小テスト			
2. 単項式と多項式	②③		②				
3. 多項式の加法と減法	④⑤						
4. 多項式の乗法	⑥⑦						
5. 展開の公式	⑦⑧						
6. 因数分解	⑨		③④				
7. 展開、因数分解の工夫	⑨		③⑤				
8. 根号を含む式の計算	⑩⑪		⑥				
9. 実数	⑫⑬		⑦				

<u>教材範囲</u> 教科書 P. 40～51	<u>内容のまとめり II</u> 第2節 1次不等式	<u>学習時期(予定)</u> 2学期当初～10月上旬	<u>配当時間</u> 10時間
-----------------------------	---------------------------------------	--------------------------------	---------------------

<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>	<u>観点別学習評価</u>				<u>態度</u>		<u>備考</u>
	規準	知、技 評価方法	規準	思、判、表 評価方法	規準	評価方法	
1. 1次方程式	⑭		⑧	定期検査および小テスト			
2. 不等式	⑮	定期検査および小テスト	⑨				
3. 不等式の解	⑮⑯		⑨				教科書P. 50は授業で取り扱わない。
	⑰		⑩				

(2) **単元：第2章 2次関数**

単元の目標	
<p>知識及び技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2次関数の値の変化やグラフの特徴について理解すること。 ・ 2次関数の最大値や最小値を求めること。 ・ 2次方程式の解と2次関数のグラフとの関係について理解すること。また、2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求めること。 	<p>思考力、判断力、表現力等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2次関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして多面的に考察すること。

観点別評価規準		
<p>知識、技能</p> <ol style="list-style-type: none"> ①関数の変数に値を代入し、適切に計算できる。 ②1次関数のグラフの傾き、切片を理解している。 ③関数の表が完成できる。 ④関数のグラフがかける。 ⑤2次関数(x^2の係数が1)が平方完成できる。 ⑥2次関数の最大値、最小値が求められる。 ⑦因数分解を用いて2次方程式が解ける。 ⑧2次方程式の解の公式を理解している。 ⑨解の公式を用いて2次方程式が解ける。 ⑩2次方程式の解と、2次関数のグラフとx軸の共有点の関係を理解している。 ⑪2次不等式が解ける。 	<p>思考、判断、表現</p> <ol style="list-style-type: none"> ①関数とは何か、説明できる。 ②1次関数のグラフの平行移動を説明できる。 ③2次関数のグラフに付随してかくことが求められる各点の座標が正しく書ける。 ④2次関数(x^2の係数が1以外)が平方完成できる。 ⑤2次方程式を解くために、因数分解と解の公式のいずれを用いるべきか、根拠をもち選択できる。 ⑥2次関数のグラフとx軸が接したり、共有点をもたない場合の根拠が説明できる。 ⑦2次関数のグラフとx軸の共有点が2個未満である場合の2次不等式の解が正しく答えられる。 	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>※提出物の提出状況やアンケートへの回答状況、学習内容等の振り返り状況等により、日常的に評価する。</p>

教材範囲 教科書 P. 58～76	内容のまとめり I 第1節 2次関数のグラフ	学習時期(予定) 9月下旬～12月上旬	配当時間 30時間
----------------------	----------------------------------	------------------------	--------------

学習活動、学習のねらい、学習形式等	観点別学習評価				備考		
	知、技		思、判、表			態度	
	規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法	
1. 関数	①	定期考査および小テスト	①②	定期考査および小テスト			
2. 1次関数のグラフ	②③④						
3. 2次関数のグラフ(1)	③④		③				
4. 2次関数のグラフ(2)	④⑤		③④				

教材範囲 教科書 P. 77～93	内容のまとめり II 第2節 2次関数の値の変化	学習時期(予定) 12月中旬～2月中旬	配当時間 17時間
----------------------	------------------------------------	------------------------	--------------

学習活動、学習のねらい、学習形式等	観点別学習評価				備考		
	知、技		思、判、表			態度	
	規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法	
1. 2次関数の最大値、最小値	④⑥	定期考査および小テスト	⑤	定期考査および小テスト		教科書P. 82は授業で取り扱わない。	
2. グラフと2次方程式	⑦⑧⑨⑩		⑥				
3. グラフと2次不等式	④⑩⑪		⑦				

(3) **単元：第4章 集合と命題**

<u>単元の目標</u>	
<u>知識及び技能</u> ・集合と命題に関する基本的な概念を理解すること。	<u>思考力、判断力、表現力等</u> ・集合の考えを用いて論理的に考察し、簡単な命題を証明すること。
<u>観点別評価規準</u>	
<u>知識、技能</u> ①集合を理解し、適切に表現できる。 ②集合周辺の数学用語とそれを表す記号が理解できる。 ③ベン図の意味や有用性を理解している。 ④命題の真偽が理解できる。 ⑤命題の真偽が調べられる。 ⑥仮定と結論を理解している。 ⑦命題の真偽と、集合の包含関係が結び付けて理解できる。 ⑧反例や否定が理解できる。 ⑨十分条件、必要条件、必要十分条件を理解している。 ⑩命題の逆、対偶が示せる。 ⑪命題の真偽と、その対偶の真偽の一致性が理解できる。 ⑫背理法を理解している。	<u>思考、判断、表現</u> ①部分集合、真部分集合の意味や違いが説明できる。 ②命題とは何か、説明できる。 ③命題の真偽が判断できる。 ④真である命題中の各条件が、十分条件、必要条件、必要十分条件のいずれであるか判断できる。 ⑤十分条件、必要条件、必要十分条件となり得る条件を適切に判断できる。
<u>主体的に学習に取り組む態度</u> ※提出物の提出状況やアンケートへの回答状況、学習内容等の振り返り状況等により、日常的に評価する。	

<u>教材範囲</u> 教科書 P. 136～146	<u>内容のまとめり</u> I 集合と命題	<u>学習時期(予定)</u> 2月下旬～年度末	<u>配当時間</u> 12時間			
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>	<u>観点別学習評価</u>			<u>備考</u>		
	<u>知、技</u>	<u>思、判、表</u>	<u>態度</u>			
	規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法
1. 集合	①②	定期考査および小テスト	①	定期考査および小テスト		
2. 命題と集合	③		②③			
3. 必要条件と十分条件	④⑤		④⑤			教科書P. 145「背理法」を用いた命題が真であることの証明は、具体的には取り扱わない。
	⑥⑦					
	⑧					
	⑨⑩					
	⑪⑫					

令和6年度（2024年度）シラバス

1 科目概要

教科	科目	担当者(主)	履修年次(今年度)	単位数(今年度)	
理科	科学と人間生活	川野 文寛	1年	2単位	
履修対象	前学年からの 継続履修 - 次学年での 継続履修 -				
全員必履修					
教材(出版社)	教科書	高等学校 科学と人間生活 (第一学習社)			
	副教材				
定期考査の実施 ※ 変更可能性あり	1学期中間 ※ 5月中旬あたり -	1学期期末 ※ 7月上旬あたり 有	2学期中間 ※ 10月中旬あたり -	2学期期末 ※ 12月上旬あたり 有	学年末 ※ 3年: 1月末 他: 2月中旬あたり 有
科目の目標 ○自然と人間生活とのかかわり、および科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に関する観察・実験などを通して理解させ、科学的な見方や考え方を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。 ○科学技術の発展が、今日の人間生活に対してどのように貢献してきたかについて理解させる。 ○身近な自然の事物・現象および日常生活や社会の中で利用されている科学技術を取り上げ、科学と人間生活とのかかわりについて認識を深めさせる。 ○自然と人間生活とのかかわり、および科学技術が人間生活に果たしてきた役割についての学習を踏まえて、これからの科学と人間生活とのかかわり方について考察させる					
知識及び技能 ○科学技術の発展の人間生活への貢献、身近な事物・現象を通しての現代の人間生活と科学技術の関連性についての知識を身につけ、これからの科学技術と人間生活のあり方について理解する。 ○身近な事物・現象に関する観察、実験の技能を習得するとともに、それらを科学的に探究する方法を身につける。		思考力、判断力、表現力等 ○身近な事物・現象の中に問題を見出し、観察、実験、調査などを行って得た結果について、科学的に思考し、判断する。 ○科学的思考・判断から導き出した自らの考えを的確に表現する。		学びに向かう力、人間性等(全単元共通) ○身近な事物・現象に関心や探究心をもち、科学的な視点・考察力を養うとともに、科学技術に対する関心を高める態度を身につける。	
具体的な評価の方法 3つの観点について、それぞれに示す方法で評価する。					
知識、技能 ・小テスト ・考査対策のプリント ・学期末考査		思考、判断、表現 ・小テスト ・考査対策のプリント ・学期末考査		主体的に学習に取り組む態度 ・実験のレポート ・授業プリント	
担当者から受講上のアドバイス 1 授業は主に授業プリントと板書・スライドを用いて進める。 2 授業内容は中学校ですでに学習したものも多く掲載されている。中学校の学習を思い出すために中学校の教科書を参考することも1つの勉強方法である。 3 小テストや考査対策のプリントは、主に家庭学習用で用いる。解答を一緒に配布するので丸付け・採点とやり直しを済ませて提出すること。この時正答数は成績に関係はせず、提出の有無を評価する。 4 提出物の期限を過ぎての提出は減点する。					

2 年間指導計画

学習時期(予定)	学習単元	学習単元内の内容のまとめ	備考
年度当初～6月上旬	第1章 物質の科学	1節 材料とその利用	
6月下旬～9月上旬	第2章 生命の科学	2節 微生物とその利用	
9月上旬～11月上旬	第3章 熱や光の科学	2節 光の性質とその利用	
11月下旬～1月下旬	第4章 地球や宇宙の科学	1節 自然景観と自然災害	
2月上旬～年度末	第5章		

(1) 単元：第1章 物質の科学

単元の目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	
①プラスチックの構成粒子、原子や共有結合を理解する。 ②熱可塑性樹脂、熱硬化性樹脂の性質の違いを理解する。 ③特別な機能をもつプラスチックについての知識を持つ。 ④金属の一般的な性質や金属結合について理解する。 ⑤鉄、銅、アルミニウムの性質と違いについて理解する。 ⑥金属の精錬のしくみを理解する。 ⑦金属のさびを防止する手法について理解する。 ⑧資源の再利用法について理解する。 ⑨プラスチックを加熱し、熱に対する性質の違いを調べる。	①プラスチックの性質の違いや化学的な構造上の特徴から、用途の違いがあることを考察する。 ②金属の性質の違いから、用途や利用方法について判断する。 ③プラスチック、金属、ガラスの化学的性質にもとづいて、再利用の方法について表現する。	
観点別評価規準		
知識、技能	思考、判断、表現	主体的に学習に取り組む態度
①プラスチックの構成粒子、原子や共有結合を理解している。 ②熱可塑性樹脂、熱硬化性樹脂の性質の違いについて理解している。 ③特別な機能をもつプラスチックについての知識をもっている。 ④金属の一般的な性質や金属結合について理解している。 ⑤鉄、銅、アルミニウムの性質と違いについて理解している。 ⑥金属の精錬のしくみを理解している。 ⑦金属のさびを防止する手法を理解している。 ⑧資源の再利用法を理解している。 ⑨プラスチックを加熱し、熱に対する性質の違いを調べることができる。	①プラスチックの性質の違いや化学的な構造上の特徴から、用途の違いがあることを考察することができる。 ②金属の性質の違いから、用途や利用方法について判断できる。 ③プラスチック、金属、ガラスの化学的性質にもとづいて、再利用の方法について表現できる。	①人間生活に不可欠なプラスチックについて興味をもち、それらの性質、化学構造、用途について理解しようとする。 ②身のまわりの金属に関心を示し、その種類、化学的性質、日常生活への利用方法について知識を習得しようとする。 ③プラスチック、金属、ガラスの再利用について、意欲的にその方法と必要性について理解しようとする。

教材範囲	内容のまとめり	学習時期(予定)	配当時間			
教科書 p 16～41	I 1節 材料とその利用	年度当初～6月上旬	12時間			
学習活動、学習のねらい、学習形式等	観点別学習評価				備考	
	知、技 規準	知、技 評価方法	思、判、表 規準	思、判、表 評価方法		態度 規準
1 プラスチックの特徴		小テスト 1		小テスト 1		
2 プラスチックの分類と用途		小テスト 2・3		小テスト 2・3		
3 さまざまなプラスチック		小テスト 4		小テスト 4		
4 金属と人間生活		小テスト 5		小テスト 5		
5 金属とその製錬		小テスト 6・7		小テスト 6・7		
6 金属のさびと合金		小テスト 8		小テスト 8		

7 資源の再利用	小テスト 9・10	小テスト 9・10		
----------	--------------	--------------	--	--

(2) **単元：第2章 生命の科学**

<u>単元の目標</u>	
<u>知識及び技能</u>	<u>思考力、判断力、表現力等</u>
<p>①身のまわりには多様な微生物が存在することを理解する。</p> <p>②微生物の発見の科学的な経緯について理解する。</p> <p>③生態系内の微生物の役割について理解する。</p> <p>④発酵の現象と、食品の製造への利用について理解する。</p> <p>⑤微生物が、抗生物質やワクチンの製造に利用されることを過去の研究者の業績を通して理解する。</p> <p>⑥微生物の利用の広がりについて理解する。</p> <p>⑦パンに生えたカビ、空気中の微生物、市販の納豆などの身近なところから微生物を観察する。</p> <p>⑧森林内や河川での微生物の分解作用を実験で確かめる。</p>	<p>①自然界のどのような場所にどのような微生物が生息しているか、どのような役割を果たしているかを考察する。</p> <p>②発酵と腐敗の違いを判断でき、発酵が人間生活に役立っていることを説明する。</p> <p>③抗生物質やワクチンの製造に、微生物が役立っていることを考察する。</p> <p>④将来の人間生活に対する微生物の利用の可能性について考察する。</p>
<u>観点別評価規準</u>	
<u>知識、技能</u>	<u>思考、判断、表現</u>
<p>①身のまわりには多様な微生物が存在することを理解している。</p> <p>②微生物の発見の科学的な経緯について理解している。</p> <p>③生態系内の微生物の役割について理解している。</p> <p>④発酵の現象と、食品の製造への利用について理解している。</p> <p>⑤微生物が、抗生物質やワクチンの製造に利用されることを過去の研究者の業績を通して理解している。</p> <p>⑥微生物の利用の広がりについて理解している。</p> <p>⑦パンに生えたカビ、空気中の微生物、市販の納豆などの身近なところから微生物を観察できる。</p> <p>⑧森林内や河川での微生物の分解作用を実験で確かめることができる。</p>	<p>①自然界のどのような場所にどのような微生物が生息しているか、どのような役割を果たしているかを考察することができる。</p> <p>②発酵と腐敗の違いを判断でき、発酵が人間生活に役立っていることを説明できる。</p> <p>③抗生物質やワクチンの製造に、微生物が役立っていることを考察できる。</p> <p>④将来の人間生活に対する微生物の利用の可能性について考察できる。</p>
<u>主体的に学習に取り組む態度</u>	
<p>①身のまわりに生息する微生物に関心を抱き、自然界にみられるさまざまな微生物について理解しようとする。</p> <p>②微生物の発見の研究史に関心をもち、意欲をもって理解しようとする。</p> <p>③発酵食品に興味を抱き、発酵の現象や、発酵の応用について理解しようとする。</p> <p>④日常生活への微生物の応用に興味をもち、医薬品への利用や、これからの微生物の利用について思考しようとする。</p>	

<u>教材範囲</u> 教科書 p 90～109	<u>内容のまとめり I</u> 微生物とその利用	<u>学習時期 (予定)</u> 6月下旬～9月上旬	<u>配当時間</u> 11時間			
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>	<u>観点別学習評価</u>			<u>備考</u>		
	<u>知、技</u>	<u>思、判、表</u>	<u>態度</u>			
	規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法
1 身近な微生物		小テスト 1		小テスト 1		
2 微生物の発見		小テスト 2		小テスト 2		
3 生態系内の微生物		小テスト 3・4		小テスト 3・4		
4 微生物の利用		小テスト 5		小テスト 5		
5 食品と微生物		小テスト 6・7		小テスト 6・7		
6 医薬品と微生物		小テスト 8		小テスト 8		

7 微生物の利用の広がり	小テスト 9	小テスト 9		
--------------	-----------	-----------	--	--

(3) **単元：第3章 熱や光の科学**

<u>単元の目標</u>		
知識及び技能		思考力、判断力、表現力等
①光の速さを調べようとした過去の実験を通して、光の速さについて理解する。		①光の反射・屈折・分散・散乱の現象について、科学的に考察する。
②光の反射・屈折・分散・散乱・回折・干渉・偏光について理解する。		②光の回折や偏光について、科学的に思考する。
③電磁波の種類と性質に関する知識を習得する。		③赤外線と紫外線の違いについて説明でき、電磁波の有効性と危険性について考察する。
④情報通信や医療などへの電磁波の利用に関する知識を持つ。		
⑤さまざまな光のスペクトルを観察し、連続スペクトルと線スペクトルとに区別する。		
<u>観点別評価規準</u>		
知識、技能	思考、判断、表現	主体的に学習に取り組む態度
①光の速さを調べようとした過去の実験を通して、光の速さについて理解している。	①光の反射・屈折・分散・散乱の現象について、科学的に考察できる。	①身のまわりの光に興味をもち、光の反射・屈折・分散・散乱・回折・干渉・偏光などの現象について理解しようとする。
②光の反射・屈折・分散・散乱・回折・干渉・偏光について理解している。	②光の回折や偏光について、科学的に思考できる。	②赤外線や紫外線に関心を抱き、人間生活に利用されている電磁波の知識を習得しようとする。
③電磁波の種類と性質に関する知識を習得している。	③赤外線と紫外線の違いについて説明でき、電磁波の有効性と危険性について考察できる。	③日常生活に利用される電磁波について意欲的に学習し、情報通信、医療などへの電磁波の利用について理解しようとする。
④情報通信や医療などへの電磁波の利用に関する知識をもっている。		
⑤さまざまな光のスペクトルを観察し、連続スペクトルと線スペクトルとに区別することができる。		

<u>教材範囲</u> 教科書 p 130～145	<u>内容のまとめり I</u> 光の性質とその利用	<u>学習時期 (予定)</u> 9月上旬～11月上旬	<u>配当時間</u> 9 時間	
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>	<u>観点別学習評価</u>			<u>備考</u>
	規準	知、技 評価方法	思、判、表 評価方法	
1 光の発生と速さ		小テスト 1	小テスト 1	
2 光の反射・屈折		小テスト 2	小テスト 2	
3 光の分散		小テスト 3	小テスト 3	
4 光の散乱		小テスト 4	小テスト 4	
5 光の回折・干渉・偏光		小テスト 5	小テスト 5	
6 電磁波の種類とその利用		小テスト 6・7	小テスト 6・7	

(4) 単元：地球や宇宙の科学

単元の目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	
①日本列島と、その付近のプレートの動きを理解する。 ②日本の火山活動や、火山の噴火と火山の形について理解する。 ③火山災害と防災について理解する。 ④日本列島の地震活動と地震の発生のしくみを理解する。 ⑤地震災害と防災について理解する。 ⑥河川や海水のはたらきによって形成される地形について理解する。 ⑦気象災害と防災について理解する。 ⑧縦断曲線を作成し、河川のはたらきについて調べる。	①日本列島のさまざまな景観は、地球内部のエネルギーと太陽から放射されるエネルギーの作用によって形成されたものであることを考察する。 ②マグマの性質や噴火の様式によって火山の形が決まることを説明する。 ③おもにプレートの活動によって地震がおこることを考察する。 ④河川や海水のはたらきによって多様な景観ができることを考察する。 ⑤災害がおこるしくみから、防災のためにどのような取り組みが必要かを考察する。	
観点別評価規準		
知識、技能	思考、判断、表現	主体的に学習に取り組む態度
①日本列島と、その付近のプレートの動きを理解している。 ②日本の火山活動や、火山の噴火と火山の形について理解している。 ③火山災害と防災について理解している。 ④日本列島の地震活動と地震の発生のしくみを理解している。 ⑤地震災害と防災を理解している。 ⑥河川や海水のはたらきによって形成される地形について理解している。 ⑦気象災害と防災を理解している。 ⑧縦断曲線を作成し、河川のはたらきについて調べることができる。	①日本列島のさまざまな景観は、地球内部のエネルギーと太陽から放射されるエネルギーの作用によって形成されたものであることを考察できる。 ②マグマの性質や噴火の様式によって火山の形が決まることを説明できる。 ③おもにプレートの活動によって地震がおこることを考察できる。 ④河川や海水のはたらきによって多様な景観ができることを考察できる。 ⑤災害がおこるしくみから、防災のためにどのような取り組みが必要かを考察できる。	①周囲にみられる多様な景観に興味をもち、その成因や日本列島の特徴、プレートの動きを理解しようとする。 ②日本の火山活動に関心をもち、火山の噴火や火山の形のでき方について理解しようとする。 ③地震に関心をもち、地震の発生するしくみを理解しようとする。 ④周囲の水環境に興味をもち、河川や海水のはたらきによってつくられる地形を理解しようとする。 ⑤火山災害や地震災害、気象災害に関心を抱き、これらのおこるしくみや防災について理解しようとする。

教材範囲	内容のまとめり I	学習時期 (予定)	配当時間			
教科書 p 146～167	1 節 自然景観と自然災害	11月中旬～3月	10時間			
学習活動、学習のねらい、学習形式等	観点別学習評価				備考	
	知、技 規準	評価方法	思、判、表 規準	評価方法		態度 規準
1 日本列島のなりたち		小テスト 1		小テスト 1		
2 火山活動と地表の変化		小テスト 2		小テスト 2		
3 火山災害と防災		小テスト 3		小テスト 3		
4 地震活動と地表の変化		小テスト 4		小テスト 4		
5 地震災害と防災		小テスト 5		小テスト 5		
6 水のはたらきと地表の変化		小テスト 6・7		小テスト 6・7		
7 気象災害と防災		小テスト 8		小テスト 8		

令和6年度（2024年度）シラバス

1 科目概要

教科 保健体育	科目 体育	担当者(主) 山本 淳	履修年次(今年度) 1 年	単位数(今年度) 3 単位	
履修対象 全員必履修	前学年からの 継続履修 -	次学年での 継続履修 有			
教材(出版社)	教科書				
	副教材				
定期考査の実施 ※ 変更可能性あり	1 学期中間 ※ 5月中旬あたり 有	1 学期期末 ※ 7月上旬あたり -	2 学期中間 ※ 10月中旬あたり 有	2 学期期末 ※ 12月上旬あたり -	学年末 ※ 3年: 1月末 他: 2月中旬あたり -
科目の目標 体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成することを目指す。					
知識及び技能 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。		思考力、判断力、表現力等 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。		学びに向かう力、人間性等(全単元共通) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を育てる。	
具体的な評価の方法 生徒や地域の実態に即して定めた目標や内容に照らして、その実現状況を下記の3観点ごとに評価する。 「十分満足できる」: A 「おおむね満足できる」: B 「努力を要する」: C					
知識、技能 運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。		思考、判断、表現 自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。		主体的に学習に取り組む態度 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に自主的に取り組もうとしている。	
担当者から受講上のアドバイス 体を動かすことを通して、体力の高まりや技能の獲得、課題の解決を図り、運動の特性や魅力を味わうとともに、公正、協力、責任、参画、共生などの社会的態度を身に付ける。 (1) 運動に親しむ (2) 健康の保持増進・体力の向上を図る (3) 粘り強く取り組む (4) 自己や他者の課題解決に協力して自主的に取り組む					

2 年間指導計画

学習時期(予定)	学習単元	学習単元内の内容のまとめ	備考
年度当初～5月上旬	体づくり運動・体育理論	体ほぐしの運動	
5月上旬～5月中旬	陸上競技・新体力テスト種目	短距離走・リレー	
5月中旬～学期末	球技	バレーボール	
9月上旬～9月下旬	体づくり運動・ダンス・体育理論	体ほぐしの運動・ダンス	
10月～11月中旬	球技	サッカー	
11月中旬～学期末	陸上競技	長距離走	
学期始め～1月下旬	体づくり運動	実生活に生かす運動の計画	
2月～学期末	球技	バスケットボール・ソフトボール	

(2) 単元： 球技

<u>単元の目標</u> <p style="text-align: center;">知識及び技能</p> ①勝敗を競う楽しさや喜びを味わえるようにする。 ②技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解する。 ③作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する。		<p style="text-align: center;">思考力、判断力、表現力等</p> ①知識や技能を得たり生かしたりしながら、攻防などの自己やチームの課題を発見する。 ②知識や技能を得たり生かしたりしながら、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫する。 ③知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己や仲間の考えたことを他者に伝える。					
<u>観点別評価規準</u> <p style="text-align: center;">知識、技能</p> ①勝敗を競う楽しさや喜びを味わうことができるよう、フェアなプレイを大切にしている。 ②技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法、試合の行い方を理解している。 ③特性に応じたゲームを展開するための作戦に応じた技能や仲間と連携した動きを身につけている。		<p style="text-align: center;">思考、判断、表現</p> ①攻防などの自己やチームの課題を発見している。 ②合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫している。 ③自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。					
		<p style="text-align: center;">主体的に学習に取り組む態度</p> ①自主的に取り組むとともにフェアなプレイを大切にしようとしている。 ②自己の責任を果たそうとすることや作戦などについて話し合いに貢献しようとする。 ③一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとしている。 ④健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとしている。					
<u>教材範囲</u> なし	<u>内容のまとめ I</u> バドミントン・バレーボール		<u>学習時期 (予定)</u> 6月上旬～7月下旬	<u>配当時間</u> 18時間			
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>	<u>観点別学習評価</u>				<u>備考</u>		
	<p style="text-align: center;">知、技</p> 規準 評価方法		<p style="text-align: center;">思、判、表</p> 規準 評価方法			<p style="text-align: center;">態度</p> 規準 評価方法	
	基礎技術の確認	② 記録、観察	①② 記録、観察	② 観察		スキルテスト	
	応用技術の確認	③ 記録、観察	①② 記録、観察	③ 観察		スキルテスト	
	ゲーム	①③ 記録、観察	③ 記録、観察	①④ 観察			
グループデジタル班ノート	②③ 入力確認	①② 入力確認	③④ 入力確認	ICT活用			
<u>教材範囲</u> なし	<u>内容のまとめ II</u> サッカー・ソフトボール		<u>学習時期 (予定)</u> 9月中旬～11月中旬	<u>配当時間</u> 21時間			
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>	<u>観点別学習評価</u>				<u>備考</u>		
	<p style="text-align: center;">知、技</p> 規準 評価方法		<p style="text-align: center;">思、判、表</p> 規準 評価方法			<p style="text-align: center;">態度</p> 規準 評価方法	
	基礎技術の確認	② 記録、観察	①② 記録、観察	② 観察		スキルテスト	
	応用技術の確認	③ 記録、観察	①② 記録、観察	③ 観察		スキルテスト	
	ゲーム	①③ 記録、観察	③ 記録、観察	①④ 観察			
グループデジタル班ノート	②③ 入力確認	①② 入力確認	③④ 入力確認	ICT活用			
<u>教材範囲</u> なし	<u>内容のまとめ III</u> バスケットボール		<u>学習時期 (予定)</u> 1月下旬～3月下旬	<u>配当時間</u> 18時間			
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>	<u>観点別学習評価</u>				<u>備考</u>		
	<p style="text-align: center;">知、技</p> 規準 評価方法		<p style="text-align: center;">思、判、表</p> 規準 評価方法			<p style="text-align: center;">態度</p> 規準 評価方法	
	基礎技術の確認	② 記録、観察	①② 記録、観察	② 観察		スキルテスト	
	応用技術の確認	③ 記録、観察	①② 記録、観察	③ 観察		スキルテスト	
	ゲーム	①③ 記録、観察	③ 記録、観察	①④ 観察			
グループデジタル班ノート	②③ 入力確認	①② 入力確認	③④ 入力確認	ICT活用			

(3) 単元： 体づくり運動

<u>単元の目標</u> <p style="text-align: center;">知識及び運動</p> ①体を動かす楽しさや心地よさを味わえるようにする。 ②運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解する。 ③健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立て取り組む。		<p style="text-align: center;">思考力、判断力、表現力等</p> ①自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える。
<u>観点別評価規準</u>		
<p style="text-align: center;">知識、運動</p> ①体を動かす楽しさや心地よさを味わえるようにしている。 ②運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などについて理解している。 ③健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立て取り組んでいる。	<p style="text-align: center;">思考、判断、表現</p> ①自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	<p style="text-align: center;">主体的に学習に取り組む態度</p> ①体づくり運動に自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとする、話し合いに貢献しようとするなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。

<u>教材範囲</u> なし	<u>内容のまとめり I</u> 体ほぐし運動	<u>学習時期 (予定)</u> 4月、9月、1月	<u>配当時間</u> 6 時間				
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>	<u>観点別学習評価</u>						<u>備考</u>
	<u>知、運</u> 規準 評価方法	<u>思、判、表</u> 規準 評価方法		<u>態度</u> 規準 評価方法			
体ほぐしのための運動	①②	観察	①	観察	①	観察	
道具を活用した運動	①②	観察	①	観察	①	観察	
運動の組み立て	③	観察	①	観察	①	観察	発表

<u>教材範囲</u> なし	<u>内容のまとめり II</u> 実生活に生かす運動の計画	<u>学習時期 (予定)</u> 4月、9月、1月	<u>配当時間</u> 9 時間				
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>	<u>観点別学習評価</u>						<u>備考</u>
	<u>知、技</u> 規準 評価方法	<u>思、判、表</u> 規準 評価方法		<u>態度</u> 規準 評価方法			
ラジオ体操第2	①②③	記録、観察	①②③	記録、観察	①②③	観察	発表

(4) 単元： **体育理論**

<u>単元の目標</u>		
知識	思考力、判断力、表現力等	
①スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解する。	①スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える。	
<u>観点別評価規準</u>		
知識	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
①スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解している。	①スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。	①スポーツの文化的特徴や現代のスポーツの発展についての学習に自主的に取り組もうとしている。

<u>教材範囲</u> 大修館書店 現代保健体育 体育編	<u>内容のまとめり</u> I スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展	<u>学習時期(予定)</u> 4月・5月、9月	<u>配当時間</u> 6 時間
------------------------------------	---	-----------------------------	---------------------

<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>	<u>観点別学習評価</u>						<u>備考</u>
	規準	知 評価方法	規準	思、判、表 評価方法	規準	態度 評価方法	
スポーツの歴史的発展と多様な変化	①	記録、観察	①	記録、観察	①	観察	確認テスト
現代のスポーツの意義や価値	①	記録、観察	①	記録、観察	①	観察	
スポーツの経済的効果と高潔さ	①	記録、観察	①	記録、観察	①	観察	
スポーツが環境や社会にもたらす影響	①	記録、観察	①	記録、観察	①	観察	

令和6年度（2024年度）シラバス

1 科目概要

教科 保健体育	科目 保健	担当者(主) 山本 淳	履修年次(今年度) 1 年	単位数(今年度) 1 単位	
履修対象 全員必履修	前学年からの 継続履修 -	次学年での 継続履修 有			
教材(出版社)	教科書 大修館書店 現代高等保健体育	副教材			
定期考査の実施 ※ 変更可能性あり	1 学期中間 ※ 5月中旬あたり -	1 学期期末 ※ 7月上旬あたり 有	2 学期中間 ※ 10月中旬あたり -	2 学期期末 ※ 12月上旬あたり 有	学年末 ※ 3年：1月末 他：2月中旬あたり 有
科目の目標 保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。					
知識及び技能 ①個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに技能を身につけるようにする。		思考力、判断力、表現力等 ①知識や技能を得たり生かしたりしながら、健康について自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。		学びに向かう力、人間性等(全単元共通) ①生涯を通して自他の健康の保持増進やそれを支える環境作りを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。	
具体的な評価の方法 生徒や地域の実態に即して定めた目標や内容に照らして、その実現状況を下記の3観点ごとに評価する。 「十分満足できる」：A 「おおむね満足できる」：B 「努力を要する」：C					
知識、技能 ①定期考査(小問)		思考、判断、表現 ①定期考査(記述) ②発問ワークプリント		主体的に学習に取り組む態度 ①授業への主体性、学習態度 ②提出物 ③学習教材の管理	
担当者から受講上のアドバイス 現代社会における健康・安全の問題は多様化しており、国民全てにとって心身の健康の保持増進が大きな課題となっている。「保健」では健康・安全に関する基礎的・基本的な内容を体系的に学習することにより、生涯を通じて健康で安全な生活を送るための基礎を培う。					

2 年間指導計画

学習時期(予定)	学習単元	学習単元内の内容のまとめ	備考
年度当初～ 4月下旬	現代社会と健康	健康の考え方	
5月上旬～ 6月下旬		生活習慣病などの予防と回復	
6月下旬～ 9月上旬		喫煙、飲酒、薬物乱用と健康	
9月上旬～ 10月上旬		精神疾患の予防と回復	
10月上旬～ 11月下旬		現代の感染症とその予防	
11月下旬～ 1月下旬	安全な社会生活	安全な社会づくり	
1月下旬～ 3月下旬		応急手当	

(1) 単元： 現代社会と健康

<u>単元の目標</u> 知識及び技能 現代社会と健康について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、理解を深める。								思考力、判断力、表現力等 健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現する。							
<u>観点別評価規準</u> 知識、技能 ①現代社会と健康について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、理解を深めようとしている。								思考、判断、表現 ①健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現している。				主体的に学習に取り組む態度 ①現代社会と健康についての学習に主体的に取り組もうとしている。			
<u>教材範囲</u> 大修館書店 現代高等保健体育保健編P 6～P 1 1				<u>内容のまとめり I</u> 健康の考え方				<u>学習時期 (予定)</u> 年度当初～5月上旬		<u>配当時間</u> 3 時間					
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>				<u>観点別学習評価</u>								<u>備考</u>			
				知、技 規準 評価方法		思、判、表 規準 評価方法		態度 規準 評価方法							
講義				① 観察		① 観察		① 観察		定期考査					
ワークプリント				① 記録、観察		① 記録、観察									
<u>教材範囲</u> 大修館書店 現代高等保健体育保健編P 1 2～P 2 7				<u>内容のまとめり II</u> 生活習慣病などの予防と回復				<u>学習時期 (予定)</u> 5月中旬～6月上旬		<u>配当時間</u> 7 時間					
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>				<u>観点別学習評価</u>								<u>備考</u>			
				知、技 規準 評価方法		思、判、表 規準 評価方法		態度 規準 評価方法							
講義				① 観察		① 観察		① 観察		定期考査					
ワークプリント				① 記録、観察		① 記録、観察									
<u>教材範囲</u> 大修館書店 現代高等保健体育保健編P 2 8～P 3 5				<u>内容のまとめり III</u> 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康				<u>学習時期 (予定)</u> 6月中旬～9月中旬		<u>配当時間</u> 4 時間					
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>				<u>観点別学習評価</u>								<u>備考</u>			
				知、技 規準 評価方法		思、判、表 規準 評価方法		態度 規準 評価方法							
講義				① 観察		① 観察		① 観察		定期考査					
ワークプリント				① 記録、観察		① 記録、観察				発表					
調べ学習 (グループ)				① 記録、観察		① 記録、観察		① 記録、観察							
<u>教材範囲</u> 大修館書店 現代高等保健体育保健編P 3 6～P 4 3				<u>内容のまとめり IV</u> 精神疾患の予防と回復				<u>学習時期 (予定)</u> 9月上旬～10月中旬		<u>配当時間</u> 4 時間					
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>				<u>観点別学習評価</u>								<u>備考</u>			
				知、技 規準 評価方法		思、判、表 規準 評価方法		態度 規準 評価方法							
講義				① 観察		① 観察		① 観察		定期考査					
ワークプリント				① 記録、観察		① 記録、観察									
<u>教材範囲</u> 大修館書店 現代高等保健体育保健編P 4 4～P 5 8				<u>内容のまとめり V</u> 現代の感染症とその予防				<u>学習時期 (予定)</u> 10月下旬～11月中旬		<u>配当時間</u> 6 時間					
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>				<u>観点別学習評価</u>								<u>備考</u>			
				知、技 規準 評価方法		思、判、表 規準 評価方法		態度 規準 評価方法							
講義				① 観察		① 観察		① 観察		定期考査					
ワークプリント				① 記録、観察		① 記録、観察									

令和6年度（2024年度）シラバス

1 科目概要

教科 芸術	科目 書道 I	担当者（主） 脇本 将吾	履修年次（今年度） 1 年	単位数（今年度） 2 単位	
履修対象 全員必履修	前学年からの 継続履修 -	次学年での 継続履修 -			
教材（出版社）	教科書 光村図書 書 I	副教材 なし			
定期考査の実施 ※ 変更可能性あり	1 学期中間 ※ 5 月中旬あたり -	1 学期期末 ※ 7 月上旬あたり -	2 学期中間 ※ 10 月中旬あたり -	2 学期期末 ※ 12 月上旬あたり -	学年末 ※ 3 年：1 月末 他：2 月中旬あたり -
<p>科目の目標</p> <p>書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す</p>					
知識及び技能 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。	思考力、判断力、表現力等 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統や文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりすることができるようになる。	学びに向かう力、人間性等（全単元共通） 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統や文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりすることができるようになる。			
<p>具体的な評価の方法</p> <p>作品 7：平常点 3 で各学期評価する。 学年成績は 1・2・3 学期の成績の平均とする。</p>					
知識、技能 ①授業への取り組みの様子。 ②小テストの成績。 ③提出作品の成績。	思考、判断、表現 ①授業への取り組みの様子。 ②小テストの成績。 ③提出作品の成績。	主体的に学習に取り組む態度 ①授業への取り組みの様子。 ②小テストの成績。 ③提出作品の成績。			
<p>担当者から受講上のアドバイス</p> <p>1 学年次のみ履修のため、3 年間の芸術の成績が確定します。 作品に対して丁寧に臨書と鑑賞を行うことを求めます。</p>					

2 年間指導計画

学期	月	学習項目	学習内容（ねらい）	評価対象
1	4	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 姿勢や執筆、用具、用材について理解し、書の学習方法を理解する。 古典の臨書を通して技法を学び、表現に生かす学習方法について理解する。 	①～③
	5	文字の造形を学ぶ（楷書） ・書体の変遷	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の書体の変遷と、各書体の字形や線質の特徴について理解する。 古典と筆者について基礎的な知識を身につける。 	①～③
	6	・九成宮醴泉銘・孔子廟堂碑・顔氏家廟碑の鑑賞と臨書	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞・臨書を通して、字形や線質、点画の特徴を捉え、用筆・運筆の技法を習得する。 	
	7	蘇峰展出品作品制作	<ul style="list-style-type: none"> 古典の技法の違いを理解し、それぞれの書風を区別して表現できている。 古典の特徴を理解し、比較しながら鑑賞を深める。 	
	8			
2	9	文字の造形を学ぶ（行書） ・蘭亭序の鑑賞と臨書	<ul style="list-style-type: none"> 古典と筆者の書道史的価値を理解する。 鑑賞・臨書を通して、行書の用筆・運筆の技法を習得する。 鑑蔵印の意味について理解させる。 	①～③
	10	文化祭展示作品制作	<ul style="list-style-type: none"> 学習してきた古典を元に、表現の構想から完成に至る過程を工夫し、自己表現する。 	①～③
	11	文字の造形を学ぶ（刻字）	<ul style="list-style-type: none"> 完成後の表現効果を考慮して作品を構想する。 刻字制作の手順を理解し、運刀などに関する知識や技法を習得する。 	①～③
	12	文字の造形を学ぶ（仮名の書） ・仮名の成立と発達 ・高野切第三種の鑑賞と臨書	<ul style="list-style-type: none"> 時代による仮名文字の推移や、平仮名と変体仮名の違いを理解している。 鑑賞・臨書を通して、仮名の用筆・運筆の技法を習得する。 古筆の表現を元に連綿の法則を理解させる。 	①～③
3	1			
	2	創作する（漢字仮名交じりの書）	<ul style="list-style-type: none"> 題材から連想するイメージの違いや表現の工夫により、多様な表現が生まれることを理解する。 表現のねらいに基づいて構想を練り、書体・書風・紙面構成・用具・用材の知識や技能を生かして工夫して表現する。 	①～③
	3		<ul style="list-style-type: none"> 作品を鑑賞し、表現の工夫とその効果を感じ取る。 	

令和6年度（2024年度）シラバス

1 科目概要

教科 外国語	科目 英語コミュニケーション I	担当者(主) 井上 典仁	履修年次(今年度) 1 年	単位数(今年度) 2 単位	
履修対象 全員必履修	前学年からの 継続履修 -	次学年での 継続履修 有			
教材(出版社)	教科書 Amity English Communication I (開隆堂)	副教材 新ユメタン①(アルク)、REPEAT 英文法ドリル(数研出版)			
定期考査の実施 ※ 変更可能性あり	1学期中間 ※5月中旬 -	1学期期末 ※6月下旬 有	2学期中間 ※10月中旬 有	2学期期末 ※11月下旬 有	学年末 ※2月中旬 有
科目の目標 英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、英語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。					
知識及び技能 英語の音声や語彙、表現、文法などの理解を深めるとともに、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。	思考力、判断力、表現力等 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝えあったりすることができる力を養う。	学びに向かう力、人間性等(全単元共通) 英語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。			
具体的な評価の方法 3つの観点について、それぞれ次に示す方法で評価する。					
知識、技能 ・定期考査 ・授業中の単元テスト ・授業中の単語テスト ・音読テスト	思考、判断、表現 ・定期考査 ・授業中の単元テスト ・インタビューテスト ・パフォーマンステスト	主体的に学習に取り組む態度 ・パフォーマンステスト ・授業中の学習態度や積極性 ・提出物の提出状況 ・学習教材や成果物の管理状況			
担当者から受講上のアドバイス <ul style="list-style-type: none"> ・毎回持参するもの 教科書、単語帳(新ユメタン①)、ドリル(REPEAT 英文法ドリル)、紙ファイル、タブレット(必要な時) ・辞書について 電子、紙、タブレット端末の辞書機能など、スマホ以外なら、いずれも使用可能です。図書室から紙辞書を借りたら、自宅等に持ち帰らないよう、授業後は速やかに責任を持って返却しましょう。 ・単元テストについて 教科書の Lesson が終わるごとに定着を図るための単元テストを行います。事前に連絡します。 ・単語テストについて 単語帳から出題します。10点満点で、基本的に毎時間授業の最初にタブレットを使って実施します。範囲は見開き1ページ分で、UNIT01からスタートします。第1回のテストはp58-59が範囲です。授業で学習する時間は十分とれませんので、自宅等で付属のCDを活用してテストに臨んでください。 ・音読テストとインタビューテストについて 教科書の Lesson が終わるごとに実施します。教科書やワークシートの本文を見ながら音読します。音読の評価の観点は、①声の大きさ②明瞭さ③スムーズさ④正確さ⑤まとまりを意識しているかです。その後続けて本文の内容について英語で質問をしますので、英語で答えてください。 ・パフォーマンステストについて 教科書の各 Lesson の最後にある「ACTION」について単元で学んだことを活かして3~5文の文章にまとめ発表をします。 ・その他 不定期に授業中に配付するワークシートは授業で使用後、必ず紙ファイルに綴じて確実に保管しましょう。各定期考査後に紙ファイルを集めますので、日頃からプリント類の整理整頓を心がけましょう。授業中以外の連絡はタブレットのクラスルームで連絡をしますので、頻繁にチェックをお願いします。 					

2 年間指導計画

学習時期 (予定)	学 習 単 元	学習單元内の内容のまとめり	備 考
年度当初～6月中旬	GET READY	数字、文字、品詞	この科目は次学年で継続履修されるので、Lesson 6～Lesson 10及びFOCUS+3、COMMUNICATE+2(「比較」「現在完了」「受動態」「分詞」関係代名詞「関係副詞」「仮定法」)は2年次で学習する。
1学期期末考査(6/27～6/30)			
7月上旬～7月下旬	Lesson 1	b e 動詞・一般動詞の現在形	
夏季休業日			
9月上旬～9月下旬	Lesson 2	b e 動詞・一般動詞の過去形	
10月上旬～11月上旬	Lesson 3	進行形/助動詞	
2学期期末考査(11/29～12/2)			
11月中旬～12月下旬	FOCUS+1	b e 動詞/一般動詞/進行形/助動詞	
冬季休業日			
1月中旬～2月上旬	Lesson 4	不定詞	
学年末考査(2/14～2/17)			
2月下旬～3月下旬	Lesson 5	動名詞	

(1) 単元：Lesson 1 The Beautiful Scenery

<p><u>単元の目標</u></p> <p>知識及び技能 現在のことを表現する言い方 (be 動詞・一般動詞の現在形) を理解し、さまざまな場面で活用すること。</p> <p>思考力、判断力、表現力等 お気に入りの場所について、紹介すること。</p>			
<p><u>観点別評価規準</u></p> <p>知識、技能</p> <p>①聞くこと be 動詞・一般動詞の現在形を理解し、それを基に、英文の内容を聞き取る技能を身につけている。</p> <p>②読むこと be 動詞・一般動詞の現在形を理解し、それを基に、国内外のすてきな景色について書かれた文章の内容を読み取る技能を身につけている。</p> <p>③話すこと〈やり取り〉 好きな写真やお気に入りの場所について、be 動詞・一般動詞の現在形を用いて伝え合う技能を身につけている。</p> <p>④話すこと〈発表〉 お気に入りの場所等について、be 動詞・一般動詞の現在形を用いて紹介する技能を身につけている。</p> <p>⑤書くこと 自分のお気に入りの場所等について、be 動詞・一般動詞の現在形を用いて書く技能を身につけている。</p>	<p>思考、判断、表現</p> <p>①聞くこと 他者がお気に入りの場所について話しているのを聞いて、その概要や要点を捉えている。</p> <p>②読むこと お気に入りの場所や行ってみたい場所についてまとめるために、書かれた文章の概要を捉えている。</p> <p>③話すこと〈やり取り〉 相手にわかってもらえるように、好きな写真やお気に入りの場所について、基本的な語句や表現を用いて伝え合っている。</p> <p>④話すこと〈発表〉 聞き手に伝わるように、自分のお気に入りの場所や行ってみたい場所について、基本的な語句や表現を用いて紹介している。</p> <p>⑤書くこと 読み手に伝わるように、自分のお気に入りの場所や行ってみたい場所について、基本的な語句や表現を用いて書いている。</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>①聞くこと 他者がお気に入りの場所について話しているのを聞いて、その概要や要点を捉えようとしている。</p> <p>②読むこと お気に入りの場所や行ってみたい場所についてまとめるために、書かれた文章の概要を捉えようとしている。</p> <p>③話すこと〈やり取り〉 相手にわかってもらえるように、好きな写真やお気に入りの場所について、基本的な語句や表現を用いて伝え合おうとしている。</p> <p>④話すこと〈発表〉 聞き手に伝わるように、自分のお気に入りの場所や行ってみたい場所について、基本的な語句や表現を用いて紹介しようとしている。</p> <p>⑤書くこと 読み手に伝わるように、自分のお気に入りの場所や行ってみたい場所について、基本的な語句や表現を用いて書こうとしている。</p>	
<p><u>教材範囲</u> 教科書 P. 12～19</p>	<p><u>内容のまとめり I</u> 世界の絶景、be 動詞・一般動詞の現在形</p>	<p><u>学習時期 (予定)</u> 年度当初～7月下旬</p>	<p><u>配当時間</u> 20時間</p>

学習活動、学習のねらい、学習形式等	観点別学習評価						備考
	知、技		思、判、表		態度		
	規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法	
世界の景色について音読とQ & A、T/F	②	単元テスト 音読テスト			②	単元テスト 音読テスト	
本文確認、インターネット検索	①	単元テスト	②③	単元テスト	③	単元テスト	
日本の景色について音読とQ & A、T/F	②	単元テスト 音読テスト			②	単元テスト 音読テスト	
本文確認、インターネット検索	①	単元テスト	②③	単元テスト	③	単元テスト	
FOCUS、SKILLS、TRY	③	単元テスト			③	単元テスト	
Lesson 本文全体内容の再確認	②⑤	単元テスト	①② ③⑤	単元テスト	③⑤	単元テスト	
お気に入りの場所について発表	④	パフォーマンステスト	④	パフォーマンステスト	④	パフォーマンステスト	

(2) **単元：Lesson2 My Best Friend**

<u>単元の目標</u> 知識及び技能 過去のことを表現する言い方 (be 動詞・一般動詞の現在形) を理解し、さまざまな場面で活用すること。		思考力、判断力、表現力等 大切にしている人などについて、紹介すること。	
<u>観点別評価規準</u>			
<u>知識、技能</u> ① 聞くこと be 動詞・一般動詞の過去形を理解し、それを基に、英文の内容を聞き取る技能を身につけている。 ② 読むこと be 動詞・一般動詞の過去形を理解し、それを基に、登場人物の気持ちについて書かれた文章の内容を読み取る技能を身につけている。 ③ 話すこと〈やり取り〉 友人としたことや感謝したいことについて、be 動詞・一般動詞の過去形を用いて伝え合う技能を身につけている。 ④ 話すこと〈発表〉 大切にしている人について、基本的な語句や表現を用いて紹介する技能を身につけている。 ⑤ 書くこと 大切にしている人について、基本的な語句や表現を用いて書く技能を身につけている。		<u>思考、判断、表現</u> ① 聞くこと 他者が大切にしている人について話しているのを聞いて、その概要や要点を捉えている。 ② 読むこと 登場人物の気持ちについてまとめるために、書かれた文章の概要を捉えている。 ③ 話すこと〈やり取り〉 相手にわかってもらえるように、友人としたことや感謝したいことについて、基本的な語句や表現を用いて伝え合っている。 ④ 話すこと〈発表〉 聞き手に伝わるように、大切にしている人について、基本的な語句や表現を用いて紹介している。 ⑤ 書くこと 読み手に伝わるように、大切にしている人について、基本的な語句や表現を用いて書いている。	
		<u>主体的に学習に取り組む態度</u> ① 聞くこと 他者が大切にしている人について話しているのを聞いて、その概要や要点を捉えようとしている。 ② 読むこと 登場人物の気持ちについてまとめるために、書かれた文章の概要を捉えようとしている。 ③ 話すこと〈やり取り〉 相手にわかってもらえるように、友人としたことや感謝したいことについて、基本的な語句や表現を用いて伝え合おうとしている。 ④ 話すこと〈発表〉 聞き手に伝わるように、大切にしている人について、基本的な語句や表現を用いて紹介しようとしている。 ⑤ 書くこと 読み手に伝わるように、大切にしている人について、基本的な語句や表現を用いて書こうとしている。	

<u>教材範囲</u> 教科書 P. 20～27	<u>内容のまとめ</u> I ちびまる子ちゃん、 be 動詞・一般動詞の過去形	<u>学習時期 (予定)</u> 9月～10月上旬	<u>配当時間</u> 10時間
-----------------------------	--	------------------------------	---------------------

学習活動、学習のねらい、学習形式等	観点別学習評価						備考
	知、技		思、判、表		態度		
	規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法	
通帳をなくしたまる子について音読とQ&A、T/F	②	単元テスト 音読テスト			②	単元テスト 音読テスト	
ペアワークとグループワークで情報共有	①	単元テスト	②③	単元テスト	③	単元テスト	
たまちゃんへのお礼について音読とQ&A、T/F	②	単元テスト 音読テスト			②	単元テスト 音読テスト	
ペアワークとグループワークで感謝したいことについてのやりとり	③	単元テスト ワークシート	③	単元テスト ワークシート	③	単元テスト	
FOCUS、SKILLS、TRY	③	単元テスト			③	単元テスト	
Lesson 本文全体内容の再確認	②⑤	単元テスト	①② ③⑤	単元テスト	③⑤	単元テスト	
大切にしている人について発表	④	パフォーマンステスト	④	パフォーマンステスト	④	パフォーマンステスト	

(3) 単元：Lesson3 Love for Dance

<u>単元の目標</u> 知識及び技能 「～している」や「～できる」の言い方を理解し、さまざまな場面で活用すること。		思考力、判断力、表現力等 絵や写真を見て思ったことや感じたことについて、表現すること。	
<u>観点別評価規準</u>			
<u>知識、技能</u> ①聞くこと 進行形や助動詞を理解し、それを基に、英文の内容を聞き取る技能を身につけている。 ②読むこと 進行形や助動詞を理解し、それを基に、ダンスのちからについて書かれた文章の内容を読み取る技能を身につけている。 ③話すこと〈やり取り〉 コンピュータの使い方や得意なことについて、進行形や助動詞を用いて伝え合う技能を身につけている。 ④話すこと〈発表〉 ダンスのちからや写真について、進行形や助動詞を用いて紹介する技能を身につけている。 ⑤書くこと ダンスのちからや写真について、進行形や助動詞を用いて書く技能を身につけている。		<u>思考、判断、表現</u> ①聞くこと 他者がダンスのちからや写真について話しているのを聞いて、その概要や要点を捉えている。 ②読むこと ダンスのちからについてまとめるために、書かれた文章の概要を捉えている。 ③話すこと〈やり取り〉 相手にわかってもらえるように、コンピュータの使い方や得意なことについて、基本的な語句や表現を用いて伝え合っている。 ④話すこと〈発表〉 聞き手に伝わるように、ダンスのちからや写真について、基本的な語句や表現を用いて紹介している。 ⑤書くこと 読み手に伝わるように、ダンスのちからや写真について、基本的な語句や表現を用いて書いている。	
		<u>主体的に学習に取り組む態度</u> ①聞くこと 他者がダンスのちからや写真について話しているのを聞いて、その概要や要点を捉えようとしている。 ②読むこと ダンスのちからについてまとめるために、書かれた文章の概要を捉えようとしている。 ③話すこと〈やり取り〉 相手にわかってもらえるように、コンピュータの使い方や得意なことについて、基本的な語句や表現を用いて伝え合おうとしている。 ④話すこと〈発表〉 聞き手に伝わるように、ダンスのちからや写真について、基本的な語句や表現を用いて紹介しようとしている。 ⑤書くこと 読み手に伝わるように、ダンスのちからや写真について、基本的な語句や表現を用いて書こうとしている。	
<u>教材範囲</u> 教科書P. 28～35		<u>内容のまとめり I</u> ダンスのちから 進行形・助動詞	
		<u>学習時期(予定)</u> 10月中旬～11月下旬	<u>配当時間</u> 10時間

学習活動、学習のねらい、学習形式等	観点別学習評価						備考
	知、技		思、判、表		態度		
	規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法	
グループダンスについて音読とQ&A、T/F	②	単元テスト 音読テスト			②	単元テスト 音読テスト	
ペアワークとグループワークでパソコンの使い方についてのやりとり	①	単元テスト	②③	単元テスト	③	単元テスト	
アイリッシュダンスについて音読とQ&A、T/F	②	単元テスト 音読テスト			②	単元テスト 音読テスト	
ペアワークとグループワークで得意なことについてのやりとり	③	単元テスト ワークシート	③	単元テスト ワークシート	③	単元テスト	
FOCUS、SKILLS、TRY、ACTION	③	単元テスト			③	単元テスト	
Lesson 本文全体内容の再確認	②⑤	単元テスト	①② ③⑤	単元テスト	③⑤	単元テスト	
興味を持ったダンスについて発表	④	パフォーマンステスト	④	パフォーマンステスト	④	パフォーマンステスト	

(4) **単元：Lesson4 Endangered Species**

<u>単元の目標</u> 知識及び技能 「～すること」や「～するため」などの言い方を理解し、さまざまな場面で活用すること。		思考力、判断力、表現力等 好きな動物について、紹介すること。	
<u>観点別評価規準</u>			
<u>知識、技能</u> ①聞くこと 不定詞を理解し、それを基に、英文の内容を聞き取る技能を身につけている。 ②読むこと 不定詞を理解し、それを基に、世界の絶滅危惧種について書かれた文章の内容を読み取る技能を身につけている。 ③話すこと〈やり取り〉 動物園ですることや絶滅危惧種を救うためにしたいことについて、不定詞を用いて伝え合う技能を身につけている。 ④話すこと〈発表〉 好きな生き物や絶滅危惧種を救う方法について、不定詞を用いて紹介する技能を身につけている。 ⑤書くこと 好きな生き物や絶滅危惧種を救う方法について、不定詞を用いて書く技能を身につけている。		<u>思考、判断、表現</u> ①聞くこと 他者が好きな生き物や絶滅危惧種を救うための方法について話しているのを聞いて、その概要や要点を捉えている。 ②読むこと 絶滅危惧種を救うためにできることについてまとめるために、書かれた文章の概要を捉えている。 ③話すこと〈やり取り〉 相手にわかってもらえるように、動物園ですることや絶滅危惧種を救うためにしたいことについて、基本的な語句や表現を用いて伝え合っている。 ④話すこと〈発表〉 聞き手に伝わるように、好きな生き物や絶滅危惧種を救う方法について、基本的な語句や表現を用いて紹介している。 ⑤書くこと 読み手に伝わるように、好きな生き物や絶滅危惧種を救う方法について、基本的な語句や表現を用いて書いている。	
		<u>主体的に学習に取り組む態度</u> ①聞くこと 他者が好きな生き物や絶滅危惧種を救うための方法について話しているのを聞いて、その概要や要点を捉えようとしている。 ②読むこと 絶滅危惧種を救うためにできることについてまとめるために、書かれた文章の概要を捉えようとしている。 ③話すこと〈やり取り〉 相手にわかってもらえるように、動物園ですることや絶滅危惧種を救うためにしたいことについて、基本的な語句や表現を用いて伝え合おうとしている。 ④話すこと〈発表〉 聞き手に伝わるように、好きな生き物や絶滅危惧種を救う方法について、基本的な語句や表現を用いて紹介しようとしている。 ⑤書くこと 読み手に伝わるように、好きな生き物や絶滅危惧種を救う方法について、基本的な語句や表現を用いて書こうとしている。	
<u>教材範囲</u> 教科書P. 38～45		<u>内容のまとめり I</u> 世界の絶滅危惧種 不定詞	
		<u>学習時期(予定)</u> 12月～2月上旬	<u>配当時間</u> 10時間

学習活動、学習のねらい、学習形式等	観点別学習評価						備考
	知、技		思、判、表		態度		
	規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法	
身近にいる絶滅危惧種について音読とQ&A、T/F	②	単元テスト 音読テスト			②	単元テスト 音読テスト	
ペアワークとグループワークで動物園ですることについてやりとり	①	単元テスト	②③	単元テスト	③	単元テスト	
絶滅を逃れたパンダについて音読とQ&A、T/F	②	単元テスト 音読テスト			②	単元テスト 音読テスト	
ペアワークとグループワークで絶滅危惧種を救うためにしたいことについてのやりとり	③	単元テスト ワークシート	③	単元テスト ワークシート	③	単元テスト	
FOCUS、SKILLS、TRY	③	単元テスト ワークシート			③	単元テスト	
Lesson 本文全体内容の再確認	②⑤	単元テスト	①② ③⑤	単元テスト	③⑤	単元テスト	
好きな生き物や絶滅危惧種を救うための考えについて発表	④	パフォーマンステスト	④	パフォーマンステスト	④	パフォーマンステスト	

(5) 単元：Lesson5 The History of Chocolate

<u>単元の目標</u> 知識及び技能 「～すること」の言い方(動名詞)を理解し、さまざまな場面で活用すること。		思考力、判断力、表現力等 大切な人に贈りたいと思うプレゼントについて、説明すること。	
<u>観点別評価規準</u>			
<u>知識、技能</u> ①聞くこと 動名詞を理解し、それを基に、英文の内容を聞き取る技能を身につけている。 ②読むこと 動名詞を理解し、それを基に、チョコレートに関する歴史について書かれた文章の内容を読み取る技能を身につけている。 ③話すこと〈やり取り〉 健康のためにしていることや余暇の過ごし方について、動名詞を用いて伝え合う技能を身につけている。 ④話すこと〈発表〉 大切な人に贈りたいプレゼントについて、紹介する技能を身につけている。 ⑤書くこと 大切な人へのプレゼントについて、書く技能を身につけている。		<u>思考、判断、表現</u> ①聞くこと 他者が大切な人に贈りたいプレゼントについて話しているのを聞いて、その概要や要点を捉えている。 ②読むこと チョコレートの歴史についてまとめるために、書かれた文章の概要を捉えている。 ③話すこと〈やり取り〉 相手にわかってもらえるように、健康のためにしていることや余暇の過ごし方について、基本的な語句や表現を用いて伝え合っている。 ④話すこと〈発表〉 聞き手に伝わるように、大切な人に贈りたいプレゼントについて、基本的な語句や表現を用いて紹介している。 ⑤書くこと 読み手に伝わるように、大切な人に贈りたいプレゼントについて、基本的な語句や表現を用いて書いている。	
		<u>主体的に学習に取り組む態度</u> ①聞くこと 他者が大切な人に贈りたいプレゼントについて話しているのを聞いて、その概要や要点を捉えようとしている。 ②読むこと チョコレートの歴史についてまとめるために、書かれた文章の概要を捉えようとしている。 ③話すこと〈やり取り〉 相手にわかってもらえるように、健康のためにしていることや余暇の過ごし方について、基本的な語句や表現を用いて伝え合おうとしている。 ④話すこと〈発表〉 聞き手に伝わるように、大切な人に贈りたいプレゼントについて、基本的な語句や表現を用いて紹介しようとしている。 ⑤書くこと 読み手に伝わるように、大切な人に贈りたいプレゼントについて、基本的な語句や表現を用いて書こうとしている。	
<u>教材範囲</u> 教科書P. 46～53		<u>内容のまとめり I</u> チョコレートの歴史 動名詞	
		<u>学習時期(予定)</u> 2月中旬～3月	
		<u>配当時間</u> 10時間	

学習活動、学習のねらい、学習形式等	観点別学習評価						備考
	知、技		思、判、表		態度		
	規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法	
チョコレートの始まりについて音読とQ&A、T/F	②	単元テスト 音読テスト			②	単元テスト 音読テスト	
ペアワークとグループワークで健康のためにしていることについてやりとり	①	単元テスト	②③	単元テスト	③	単元テスト	
チョコレートの歴史について音読とQ&A、T/F	②	単元テスト 音読テスト			②	単元テスト 音読テスト	
ペアワークとグループワークで余暇の過ごし方についてのやりとり	③	単元テスト ワークシート	③	単元テスト ワークシート	③	単元テスト	
FOCUS、SKILLS、TRY	③	単元テスト ワークシート			③	単元テスト	
Lesson 本文全体内容の再確認	②⑤	単元テスト	①② ③⑤	単元テスト	③⑤	単元テスト	
大切な人に贈りたいプレゼントについて発表	④	パフォーマンステスト	④	パフォーマンステスト	④	パフォーマンステスト	

令和6年度（2024年度）シラバス

1 科目概要

教科 家庭	科目 家庭総合	担当者(主) 西山 智美	履修年次(今年度) 1年	単位数(今年度) 2単位
履修対象 全員必履修	前学年からの 継続履修 -	次学年での 継続履修 有		
教材(出版社)	教科書 家庭総合 自立・共生・創造(東京書籍)	副教材 家庭科学学習ノート(熊本県高等学校教育研究会家庭部会)		
定期考査の実施 ※変更可能性あり	1学期中間 ※5月中旬あたり 有	1学期期末 ※7月上旬あたり 有	2学期中間 ※10月中旬あたり 有	2学期期末 ※12月上旬あたり 有
学年末 ※3年:1月末 他:2月中旬あたり 有				
科目の目標 生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する。				
知識及び技能 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図り、それらに関する技能を体験的・総合的に身につける。	思考力、判断力、表現力等 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。	学びに向かう力、人間性等(全単元共通) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実を図ろうとする実践的な態度を養う。		
具体的な評価の方法 3つの観点について、それぞれに示す方法で評価する。				
知識、技能 ・定期考査 ・実習 ・ワークシート	思考、判断、表現 ・実習や映像視聴、資料等の感想記述 ・行動観察、活動参加状況 ・ホームプロジェクト (取組、まとめ、発表の仕方)	主体的に学習に取り組む態度 ・行動観察 ・学習プリント記述 ・ホームプロジェクト		
担当者から受講上のアドバイス 家庭科は「自分の生活」が教材です。しっかりと「自分」を振り返りながら学習に臨んでください。授業で思ったこと、感じたこと、考えたことは積極的に発言しましょう。そして、他の人がどのような考えを持っているかを知り、聞きましょう。多様な生き方に触れ、豊かな人生となるような学習にしてください。期限や時間は守りましょう。また、苦手な分野があっても、意欲的に取り組んで欲しいと思います。				

2 年間指導計画

学習時期(予定)	学習単元	学習単元内の内容のまとめ	備考
年度当初～6月下旬	家族・社会との共生	A 人の一生と家族・家庭及び福祉 (1) 生涯の生活設計 (2) 青年期の自立と家族・家庭	
7月上旬～12月下旬	生活の自立	B 衣食住の生活の自立と設計 (1) 食生活と健康	
1月中旬～年度末	家族・社会との共生	A 人の一生と家族・家庭及び福祉 (3) 子供の生活と保育	

(1) 単元：家族・社会との共生

<p><u>単元の目標</u></p> <p>知識及び技能</p> <p>○人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解する。 ○自立した生活を営むために、生涯を見通して、生活課題に対応し意志決定をしていくことの重要性について理解を深める。 ○生活の営みに必要な金銭、生活時間などの生活資源について理解し、情報の収集・整理ができる。 ○生涯発達の視点から各ライフステージの特徴と課題について理解する。 ○青年期の課題である自立や男女の平等と協力、意志決定の重要性について理解を深める。 ○家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭と法律、家庭生活と福祉などについて理解する。 ○家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わり、家族・家庭を取り巻く社会環境の変化や課題について理解を深める。</p>		<p>思考力、判断力、表現力等</p> <p>○生涯を見通した自己の生活について主体的に考える。 ○ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について考察する。 ○生活資源を活用して生活設計を工夫する。 ○家庭や地域のよりよい社会を創造するために、自己の意志決定に基づき、責任をもって行動することや、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし、家庭を築くことの重要性について考察する。</p>		
<p><u>観点別評価規準</u></p> <p>知識、技能</p> <p>①自己を振り返り、他者や社会と関わりながら生きていたり、様々な生き方があることを理解している。 ②ライフステージの特徴と発達課題、家族・家庭の機能と家族関係について理解している。 ③家族・家庭に関する法律について理解している。 ④家族構成・家庭の機能の変化について、資料やデータ等の情報の収集・整理ができる。</p>		<p>思考、判断、表現</p> <p>①多様な家族の在り方について問題を見いだして課題を設定している。 ②自分の結婚観・職業観を踏まえ、自らのライフプランを具体的に考え、工夫している。 ③青年期の発達課題を理解し、高校生の時期に自己理解が必要であることについて考えている。 ④自分らしい働き方や、社会との関わりを含めて、自分の生き方について課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現している。</p>		<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>多様な家族の在り方や生き方に触れ、自分らしい人生の在り方について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。</p> <p>※提出物の提出状況やアンケートへの回答状況、感想記入状況等より、日常的に評価する。</p>
<p><u>教材範囲</u></p> <p>教科書 p 14～39</p>	<p><u>内容のまとめり I</u></p> <p>A 人の一生と家族・家庭及び福祉 (1) 生涯の生活設計 (2) 青年期の自立と家族・家庭</p>		<p><u>学習時期 (予定)</u></p> <p>年度当初～6月下旬</p>	<p><u>配当時間</u></p> <p>15時間</p>

学習活動、学習のねらい、学習形式等	観点別学習評価						備考 (実習課題)	
	知、技		思、判、表		態度			
	規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法		
1 生涯発達の視点	①②	・定期考査 ・ワークシート記述等		・行動観察 ・ワークシート記述等		・行動観察 ・ワークシート記述等	「なぜ、人生について学ぶのか」 自立度チェック	
2 青年期の課題	①②		②					ライフプランを立てる
3 目標を持って生きる	①②		②③					結婚観・職業観アンケート
4 人生をつくる	③		①					日野原重明「家族とは」を読んで感想記述
5 家族・家庭を見つめる	③④							婚姻届・出生届を記入してみよう
6 これからの家庭生活と社会	④		④					家事分担チェック

(2) 単元：生活の自立

<u>単元の目標</u> 知識及び技能 ○食生活を取り巻く課題、食の安全と衛生、日本と世界の食文化など、食と人との関わりについて理解する。 ○ライフステージの特徴や課題に着目し、栄養の特徴、食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解する。 ○自己と家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身につける。 ○おいしさの構成要素や食品の調理上の性質、食品衛生について理解する。 ○目的に応じた調理に必要な技能を身につける。		思考力、判断力、表現力等 ○主体的に食生活を営むことができるよう、健康及び環境に配慮した自己と家族の食事、日本の食文化の継承・創造について考察し、工夫する。
<u>観点別評価規準</u>		
知識、技能 ①食事の意義と目的や青年期の食生活の課題について理解している。 ②五大栄養素の特徴、食品の栄養的特質、調理性について理解している。 ③ライフステージに応じた食生活の在り方について理解を深めている。 ④調理器具や食品の安全で適切な取り扱い方を身につけている。 ⑤目的に応じた調理の基礎的・基本的技能を身につけている。 ⑥食生活を取り巻く問題についての情報の収集・整理ができる。	思考、判断、表現 ①青年期の食生活の課題を踏まえ、自らの食生活について問題を見いだして課題を設定している。 ②安全な食生活について考え、工夫している。 ③実習を振り返り、課題を把握し、実践を評価したり、改善したりしている。 ④ライフステージや生活に応じた食生活の在り方、食生活を取り巻く社会の現状についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現している。	主体的に学習に取り組む態度 自らの食生活を振り返り、よりよい食生活にするために工夫したり、食生活に関する社会の現状について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。 ※提出物の提出状況やアンケートへの回答状況、感想記入状況等より、日常的に評価する。

<u>教材範囲</u> p 130～181	<u>内容のまとめり I</u> B 衣食住の生活の自立と設計 (1) 食生活と健康	<u>学習時期 (予定)</u> 7月上旬～12月下旬	<u>配当時間</u> 30時間
--------------------------	--	--------------------------------	---------------------

学習活動、学習のねらい、 学習形式等	観点別学習評価						備考 (実習課題)
	規準	知、技 評価方法	規準	思、判、表 評価方法	規準	態度 評価方法	
1 食生活の課題について考える	①		①				なぜ、人は食べるのか？食生活について学ぶのか？ 新聞記事「和食ってすごい」感想記述
2 食事と栄養・食品	②						
3 食生活の安全と衛生	②④ ⑤		②				食品表示を見てみよう (資料「これ何の表示？」) 食品表示調べ (ホームプロジェクト)
4 生涯の健康を見通した食事計画	③④ ⑤		③④				献立作成 資料「スポーツと食事」
5 調理の基礎	④⑤		③④				調理室の使い方 調理計量器の使い方 調理実習 ・きゅうりの半月切り ・米粉マフィン ・和食 (親子丼・すまし汁・ほうれん草のごま和え) ・洋食 (マカロニグラタン・コンソメスープ・みかんゼリー) ・中華 (包子饅頭・清川鶏蛋・牛奶奶豆腐) ・おせち (だし巻き・日の出かまぼこ・いりどり) ・くまもとふるさと名人講習会 (地域の食材を使った調理) ・キャンプ実習に向けて ・ピザ釜を使った調理
6 食生活の文化と知恵	⑥						食生活のマナー おせち調べ (ホームプロジェクト)

(3) **単元：家族・社会との共生**

<u>単元の目標</u>	
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
○乳幼児期の心身の発達と生活、子供の遊びと文化、親の役割と保育、子育て支援について理解を深める。 ○子供の発達に応じて適切に関わるための技能を身につける。 ○子供を取り巻く社会環境の変化や課題及び子供の福祉について理解を深める。	○子供を生き育てることの意義や、保育の重要性について考える。 ○子供の健やかな発達を支えるために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性を考察する。 ○子供との適切な関わり方を工夫する。

<u>観点別評価規準</u>		
知識、技能	思考、判断、表現	主体的に学習に取り組む態度
①乳幼児期の心身の発育・発達について理解している。 ②乳幼児期の生活について、生活習慣や食事、衣服、健康管理や愛着の形成について理解している。 ③子供の遊びの意義について理解している。 ④子供の発達段階に応じた適切な働きかけの仕方を身につけている。 ⑤子育てを支援する制度等、社会全体で子育てを支援していくことの重要性について理解を深めている。 ⑥子供を取り巻く社会環境の変化や課題について理解を深めている。	①子供を生き育てることの意義や責任について問題を見いだして課題を設定している。 ②子供の健やかな発達のために、親や周囲の関わり的重要性について考え、工夫している。 ③子供との適切な関わり方について、実践を評価したり、改善したりしている。 ④子供の育つ環境に関する課題や社会が果たす役割の重要性についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現している。	社会の一員として、健やかな子供の発育・発達に適切に関わり、自分や家族、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。 ※提出物の提出状況やアンケートへの回答状況、感想記入状況等より、日常的に評価する。

<u>教材範囲</u>	<u>内容のまとめ</u> I	<u>学習時期 (予定)</u>	<u>配当時間</u>
p 4 2～6 9	A 人の一生と家族・家庭及び福祉 (3) 子供の生活と保育	1月中旬～年度末	25時間

<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>	<u>観点別学習評価</u>						<u>備考 (実習課題)</u>
	知、技		思、判、表		態度		
	規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法	
1 命を育む			①				なぜ、子どものことについて学ぶのか？ 中絶に関する資料を読んで感想記述
2 子どもの育つ力を知る	①③	・定期考査 ・調理実習	②	・行動観察 ・ワークシート記述等		・行動観察 ・ワークシート記述等	出産の映像視聴 子どもの遊び体験 (折り紙、絵本、紙ヒコーキ・・・)
3 親として共に育つ	②④						粉ミルク・離乳食の試食 記事「出生前診断」の感想記述
4 子どもとの触れ合いから学ぶ	③④		③				乳幼児との交流 (保育園訪問)
5 これからの保育環境	⑤⑥		④				子どもを取り巻く環境の資料読み取り

令和6年度（2024年度）シラバス

1 科目概要

教科 農業	科目 農業と環境	担当者(主) 中原 武徳	履修年次(今年度) 1年	単位数(今年度) 2単位	
履修対象 全員必履修	前学年からの 継続履修 -	次学年での 継続履修 -			
教材(出版社)	教科書 農業と環境(実教出版)	副教材 なし			
定期考査の実施 ※変更可能性あり	1学期中間 ※5月中旬あたり -	1学期期末 ※7月上旬あたり 有	2学期中間 ※10月中旬あたり -	2学期期末 ※12月上旬あたり 有	学年末 ※3年:1月末 他:2月中旬あたり 有
科目の目標 農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業の各分野で活用する基礎的な資質・能力を育成することを目指す。					
知識及び技術 農業と環境について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。		思考力、判断力、表現力等 農業と環境に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。		学びに向かう力、人間性等(全単元共通) 農業と環境について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。	
具体的な評価の方法 3つの観点について、それぞれ次に示す方法で評価する。					
知識、技術 ・定期考査 ・実習(実技)		思考、判断、表現 ・定期考査(記述) ・実習(実技)		主体的に学習に取り組む態度 ・授業・実習中の学習態度 ・提出物の提出	
担当者から受講上のアドバイス ・授業内容と実習内容がリンクしていきますので日々の授業・実習を大切にしてください。 ・実習後、実習ノートの記入があります。後で見えてわかるように丁寧に記入してください。また、提出の必要があります。 ・実習では、様々な道具を使用します。怪我の危険性の高いものもありますので注意してください。					

2 年間指導計画

学習時期(予定)	学習単元	学習単元内の内容のまとめ	備考
年度当初～5月上旬	第1章 農業と環境を学ぶ	1 農業・環境学習 2 農業と環境の学び方	
5月上旬～7月中旬	第2章 私たちの暮らしと農業・農村	1 人間と植物・動物との関わり 2 農業と自然・社会との関わり 3 日本の農業・農村と食料供給 4 農業・農村の役割 5 これからの農業・農村	
9月上旬～11月上旬	第3章 栽培と飼育の基礎	1 作物の特性と栽培の仕組み 2 作物を取り巻く環境とその管理	
11月上旬～3月中旬	第4章 栽培と飼育のプロジェクト	ピーマン オクラ 稲 大豆 トマト 白菜 大根 ジャガイモ	

(1) **単元：第1章 農業と環境を学ぶ**

<u>単元の目標</u> 知識及び技能 ・農業と環境の関係を理解する ・栽培や環境調査を体験的に学習し、農業や環境に起こっている問題を理解する。		思考力、判断力、表現力等 農業と環境に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。		
<u>観点別評価規準</u> 知識、技術 ①農業と環境について理解できる。 ②農業問題と環境問題を関連づけて理解できる。		思考、判断、表現 ①農業問題・環境問題を関連づけて説明できる。 ②農業が環境に負荷をかけていることを説明できる。		
主体的に学習に取り組む態度 ①環境調査から農業に係わる問題点を見出し、主体的に解決しようとする。 ②気候変動に伴う農業のあり方について判断できる。				
<u>教材範囲</u> P 6～P 16	<u>内容のまとめり I</u> 第1章 農業と環境を学ぶ	<u>学習時期（予定）</u> 年度当初～5月上旬	<u>配当時間</u> 6 時間	
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>	<u>観点別学習評価</u>			<u>備考</u>
	知、技 規準 評価方法	思、判、表 規準 評価方法	態度 規準 評価方法	
1 農業・環境学習	① 確認テスト	① 課題設定	① 課題設定	
2 農業と環境の学び方	①② 確認テスト	①② 解決設定	② 解決設定	

(2) **単元：第2章 私たちの暮らしと農業・農村**

<u>単元の目標</u> 知識及び技術 ・動植物の生命活動、生物間のつながり、生物の体を理解する。 ・物質の循環について理解する。		思考力、判断力、表現力等 農業分野における動植物の生命活動と物質の循環について課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。		
<u>観点別評価規準</u> 知識、技術 ①動植物の生命活動について理解する。 ②物質が循環していることについて理解する。		思考、判断、表現 ①動植物の生命活動と物質の循環について説明できる。 ②農業と自然環境問題について説明できる。		
主体的に学習に取り組む態度 ①農業・農村の様々な課題に対して主体的に解決しようとする。 ②これから農業が向かう方向について判断できる。				
<u>教材範囲</u> P 18～P 52	<u>内容のまとめり I</u> 第2章 私たちの暮らしと農業・農村	<u>学習時期（予定）</u> 5月上旬～7月中旬	<u>配当時間</u> 18時間	
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>	<u>観点別学習評価</u>			<u>備考</u>
	知、技 規準 評価方法	思、判、表 規準 評価方法	態度 規準 評価方法	
1 人間と植物・動物との関わり	① 確認テスト	①② レポート	① 記録簿提出	
2 農業と自然・社会との関わり	② 確認テスト	①② レポート	①② 記録簿提出	
3 日本の農業・農村と食料供給	① 確認テスト			
4 農業・農村の役割	① 確認テスト		② 記録簿提出	
5 これからの農業・農村	① 確認テスト		② 記録簿提出	

(3) **単元：第3章 栽培と飼育の基礎**

<u>単元の目標</u> 知識及び技術 ・作物の分類と特性について理解する。 ・作物の発芽から結実までの成長の仕組みについて理解する。 ・作物の成長に伴う管理方法について理解する。 ・作物の繁殖の仕組みを理解する。		思考力、判断力、表現力等 ・作物の成長の仕組みについて理解し、成長ステージごとの管理方法について判断できる。 ・作物の成長に関連する様々な栽培環境について理解し、作物の健全な成長を促すように主体的に解決しようとする。	
--	--	--	--

<u>観点別評価規準</u>		
知識、技術 ①作物の特性について理解する。 ②作物の成長の仕組みについて理解する。 ③作物の生育に伴う管理方法について理解する。	思考、判断、表現 ①作物の特性や生育の仕組みについて説明できる。 ②作物の生育に伴う管理方法について説明できる。	主体的に学習に取り組む態度 ①作物の生育や管理方法について判断できる。 ②作物の生育に係わる様々な問題を主体的に解決しようとする。

<u>教材範囲</u> P 5 4 ~ P 8 4	<u>内容のまとめり I</u> 第 3 章 栽培と飼育の基礎	<u>学習時期 (予定)</u> 9 月上旬 ~ 11 月上旬	<u>配当時間</u> 1 8 時間	
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>	<u>観点別学習評価</u>			<u>備考</u>
	知、技 規準 評価方法	思、判、表 規準 評価方法	態度 規準 評価方法	
1 作物の特性と栽培の仕組み	① 確認テスト	①② レポート	①② 記録簿提出	
2 作物を取り巻く環境とその管理	②③ 確認テスト	①② レポート	①② 記録簿提出	

(4) **単元：第4章 栽培と飼育のプロジェクト**

<u>単元の目標</u>	
知識及び技術 ・様々な農業生物の栽培を通じ、その農業生物の特性を理解する。 ・様々な農業生物の成育段階に応じた管理作業の手順や内容を理解する。	思考力、判断力、表現力等 ・作物の成長の仕組みについて理解し、成長ステージごとの管理方法について判断できる。 ・作物の成長に関連する様々な栽培環境について理解し、作物の健全な成長を促すように主体的に解決しようとする。
<u>観点別評価規準</u>	
知識、技術 ①農業生物の特性を理解する。 ②農業生物の管理作業が理解できる。	思考、判断、表現 ①作物の特性や生育の仕組みについて説明できる。 ②作物の生育に伴う管理方法について説明できる。
主体的に学習に取り組む態度 ①作物の生育や管理方法について判断できる。 ②作物の生育に係わる様々な問題を主体的に解決しようとする。	

<u>教材範囲</u> P 1 0 4 ~ P 1 7 4	<u>内容のまとめり I</u> 第 4 章 栽培と飼育のプロジェクト	<u>学習時期 (予定)</u> 11 月上旬 ~ 3 月中旬	<u>配当時間</u> 2 8 時間	
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>	<u>観点別学習評価</u>			<u>備考</u>
	知、技 規準 評価方法	思、判、表 規準 評価方法	態度 規準 評価方法	
ピーマン	①② 確認テスト	①② 記録簿提出	①② 記録簿提出	
オクラ	①② 確認テスト	①② 記録簿提出	①② 記録簿提出	
稲	①② 確認テスト	①② 記録簿提出	①② 記録簿提出	
大豆	①② 確認テスト	①② 記録簿提出	①② 記録簿提出	
トマト	①② 確認テスト	①② 記録簿提出	①② 記録簿提出	
白菜	①② 確認テスト	①② 記録簿提出	①② 記録簿提出	
大根	①② 確認テスト	①② 記録簿提出	①② 記録簿提出	
ジャガイモ	①② 確認テスト	①② 記録簿提出	①② 記録簿提出	

- 1 学年成績算出方法 (1 学期成績 + 2 学期成績 + 3 学期成績) ÷ 3
- 2 各学期成績算出基礎 関心・意欲・態度 = 20% 授業態度等
思考・判断・表現 = 20% 実習・提出物等
技能 = 20% 実習等
知識・理解 = 40% 考査・実習等
- 3 単位の認定 (1) 出席時数が 2 / 3 以上であること。
(2) 評定 2 (30 点) 以上であること。
(3) 課題やレポートがすべて提出されること。

令和6年度（2024年度）シラバス

1 科目概要

教科 農業	科目 総合実習	担当者(主) 米村 慎悟	履修年次(今年度) 1年	単位数(今年度) 3単位	
履修対象 全員必履修	前学年からの 継続履修 有	次学年での 継続履修 有	*このうち1単位は時間外総合実習		
教材(出版社)	教科書	教科書はないため、指導案をもとに授業展開する			
	副教材	「農業と環境」や「アウトドア」関係の本、資料・プリントを使用			
定期考査の実施 ※変更可能性あり	1学期中間 ※5月中旬あたり	1学期期末 ※7月上旬あたり	2学期中間 ※10月中旬あたり	2学期期末 ※12月上旬あたり	学年末 ※3年：1月末 他：2月中旬あたり
	-	有	-	有	有
科目の目標 農林業やアウトドアライフの見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業・アウトドアライフの各分野の改善を図る実践的な資質・能力を育成することを目指す。					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力等		学びに向かう力、人間性等(全単元共通)	
農林業やアウトドアライフを総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関係する技術を身に付けるようにする。		農林業、アウトドアライフに関する総合的な課題を発見し、農林業や関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。		農林業、アウトドアライフの総合的な知識や技術が身に付くよう自ら学び、農林業、アウトドアライフの振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。	
具体的な評価の方法 定期考査と実技・実習を中心に評価します。					
知識、技能		思考、判断、表現		主体的に学習に取り組む態度	
<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 実習(実技) 		<ul style="list-style-type: none"> 定期考査(記述) 実習(実技) 		<ul style="list-style-type: none"> 授業・実習 授業・実習中の学習態度 提出物の提出 	
担当者から受講上のアドバイス <ul style="list-style-type: none"> 授業内容と実習内容がリンクしていきますので日々の授業・実習を大切にしてください。 実習後、実習ノートの記入があります。後で見えてわかるように丁寧に記入してください。また、提出の必要があります。 実習では、様々な道具を使用します。怪我の危険性の高いものもありますので注意してください。 					

2 年間指導計画

学習時期(予定)	学習単元	学習単元内の内容のまとめ	備考
年度当初～12月上旬	花苗・家庭菜園を作ろう	草花、栽培植物の選定 耕耘・畝立て・マルチ張り 播種・育苗 定植・管理(7月から収穫) 花壇整備・植えつけ	
6月上旬～7月上旬	釣りに行こう	仕掛け作り 溪流釣り	
4月～11月中旬	トレッキングに行こう	季節を知る 景色を知る	アウトドアライフ
4月上旬～9月中旬	キャンプに行こう	テント張り キャンプ飯づくり	
6月上旬～9月上旬	カヌーに乗ろう	カヌーの基本操作 溪流での実技	
5月中旬～12月中旬	マウンテンバイク	マウンテンバイクの基礎・基本 マウンテンバイク実技①グラウンド マウンテンバイク実技②コース マウンテンバイク実技③ロード	
6月上旬～2月上旬	クラフトを楽しもう	自然素材の選定 創作活動 創作品紹介	
1月～3月	プレゼンテーション作成	泉分校の活動この1年	

3 指導と評価の計画

(1) **単元：花苗・家庭菜園を作ろう**

<u>単元の目標</u>		<u>知識及び技能</u>		<u>思考力、判断力、表現力等</u>		
<ul style="list-style-type: none"> 植物の栽培管理について総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関係する技術を身に付けるようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> 農業の総合的な知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 				
<u>観点別評価規準</u>						
<u>知識、技能</u>		<u>思考、判断、表現</u>		<u>主体的に学習に取り組む態度</u>		
<ul style="list-style-type: none"> ①各作業工程（栽培・管理）の目的を理解する。 ②植物の生育にとって環境条件が大切であることを理解する。 		<ul style="list-style-type: none"> ①植物の成長過程における適切な管理の必要性が判断できる。 ②植物の成長過程における適切な作業ができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ①植物の生育過程における状況を把握し、事前に対応できる能力と態度を養う。 		
<u>教材範囲</u>		<u>内容のまとめり I</u>		<u>学習時期（予定）</u>		
プリント		家庭菜園を作ろう		年度当初～6月上旬		
				配当時間 12時間		
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>		<u>観点別学習評価</u>				<u>備考</u>
		<u>知、技</u>		<u>思、判、表</u>		
		<u>規準</u>	<u>評価方法</u>	<u>規準</u>	<u>評価方法</u>	<u>態度</u>
						<u>規準</u>
						<u>評価方法</u>
花苗・栽培植物の選定						① 取り組み
耕耘・畝立て・マルチ張り		①②	実習	①②	実習	① 取り組み
播種・育苗		①②	実習	①②	実習	① 取り組み
定植・管理（7月から収穫）		①②	実習	①②	実習	① 取り組み

(2) **単元：アウトドアライフ**

<u>単元の目標</u>		<u>知識及び技能</u>		<u>思考力、判断力、表現力等</u>		
<ul style="list-style-type: none"> アウトドアライフについての基礎・基本を理解し、実際にアウトドアライフができる。 自然との関わりの中でアウトドアライフが心身に良い影響を及ぼすことが理解できる。 		<ul style="list-style-type: none"> 得た知識と経験を活かし、様々な野外活動にチャレンジし、自ら考え行動できる態度を養う。 				
<u>観点別評価規準</u>						
<u>知識、技能</u>		<u>思考、判断、表現</u>		<u>主体的に学習に取り組む態度</u>		
<ul style="list-style-type: none"> ①アウトドアライフについての基礎・基本を理解し、実際にアウトドアライフができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ①アウトドアライフを仲間と協力して実施できるように主体的な判断ができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ①自然環境はもとより自分の生き方にも関心を持ち、意欲的に行動する能力と態度を養う。 		
<u>教材範囲</u>		<u>内容のまとめり I</u>		<u>学習時期（予定）</u>		
学習内容別プリント		アウトドアライフ		6月上旬～12月		
				配当時間 40時間		
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>		<u>観点別学習評価</u>				<u>備考</u>
		<u>知、技</u>		<u>思、判、表</u>		
		<u>規準</u>	<u>評価方法</u>	<u>規準</u>	<u>評価方法</u>	<u>態度</u>
						<u>規準</u>
						<u>評価方法</u>
溪流釣りに行こう		①	確認テスト	①	計画・実施	① 取り組み
トレッキングに行こう		①	確認テスト	①	計画・実施	① 取り組み
キャンプに行こう		①	確認テスト	①	計画・実施	① 取り組み
カヌーに乗ろう		①	確認テスト	①	計画・実施	① 取り組み
マウンテンバイク		①	確認テスト	①	計画・実施	① 取り組み

(3) **単元：クラフトを楽しもう**

<u>単元の目標</u>		<u>知識及び技能</u>		<u>思考力、判断力、表現力等</u>		
・自然素材について総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関係する技術を身に付けるようにする。		・農林業の総合的な知識や技術が身に付くよう自ら学び、農林業や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
<u>観点別評価規準</u>						
<u>知識、技能</u>		<u>思考、判断、表現</u>		<u>主体的に学習に取り組む態度</u>		
①各作業工程の目的を理解する。 ②自然素材が大切であることを理解する。		①自然素材の特徴や尊さの必要性について表現できる。 ②自然素材の状態に応じた適切な使用や創作活動ができる。		①自然素材における創作活動状況を把握し、的確に対応できる能力と態度や作品製作力を養う。		
<u>教材範囲</u>		<u>内容のまとめり I</u>		<u>学習時期 (予定)</u>		
プリント		花苗を作ろう		9月上旬～12月上旬		
				<u>配当時間</u>		
				10時間		
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>		<u>観点別学習評価</u>				<u>備考</u>
		<u>知、技</u>		<u>思、判、表</u>		
		<u>規準</u>	<u>評価方法</u>	<u>規準</u>	<u>評価方法</u>	<u>態度</u>
		<u>規準</u>	<u>評価方法</u>	<u>規準</u>	<u>評価方法</u>	<u>評価方法</u>
自然素材の選定		①②	実習	①②	実習	① 取り組み
創作活動		①②	実習	①②	実習	① 取り組み
創作品紹介		①②	実習	①②	実習	① 取り組み

(4) **単元：プレゼンテーション作成**

<u>単元の目標</u>		<u>知識及び技能</u>		<u>思考力、判断力、表現力等</u>		
・実際に実施したアウトドアライフや創作活動、調査・観察等を系統立ててまとめることができる。		・発表会においてわかりやすく自分のものとして発表ができる。				
<u>観点別評価規準</u>						
<u>知識、技能</u>		<u>思考、判断、表現</u>		<u>主体的に学習に取り組む態度</u>		
①アウトドアライフや創作活動、調査・観察等を各項目別目的が理解できる。 ②アウトドアライフや創作活動、調査・観察等の各項目別知識・技能が自分のものとなっている。		①発表会においてわかりやすく自分のものとして発表ができる。		①一年間の学習の内容を主体的にまとめ、わかりやすく発表する能力と態度を養う。		
<u>教材範囲</u>		<u>内容のまとめり I</u>		<u>学習時期 (予定)</u>		
プリント		プレゼンテーション作成		1月～3月		
				<u>配当時間</u>		
				8時間		
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>		<u>観点別学習評価</u>				<u>備考</u>
		<u>知、技</u>		<u>思、判、表</u>		
		<u>規準</u>	<u>評価方法</u>	<u>規準</u>	<u>評価方法</u>	<u>態度</u>
		<u>規準</u>	<u>評価方法</u>	<u>規準</u>	<u>評価方法</u>	<u>評価方法</u>
泉分校の活動この1年		①②	作品	①	発表	① 取り組み

令和6年度（2024年度）シラバス

1 科目概要

教科 農業	科目 農業と情報	担当者(主) 中原 武徳	履修年次(今年度) 1年	単位数(今年度) 2単位	
履修対象 全員必履修	前学年からの 継続履修 -	次学年での 継続履修 有			
教材(出版社)	教科書 農業と情報(実務教育)	副教材			
定期考査の実施 ※変更可能性あり	1学期中間 ※5月中旬あたり -	1学期期末 ※7月上旬あたり 有	2学期中間 ※10月中旬あたり -	2学期期末 ※12月上旬あたり 有	学年末 ※3年:1月末 他:2月中旬あたり 有
科目の目標 農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、農業に関する情報を主体的に活用するために必要な資質・能力を育成することを目指す。					
知識及び技術 農業に関する情報について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	思考力、判断力、表現力等 農業情報の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する能力を養う。	学びに向かう力、人間性等(全単元共通) 農業に関する情報について主体的に調査・分析・活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			
具体的な評価の方法 3つの観点について、それぞれ次に示す方法で評価する。					
知識、技術 ・定期考査(実技) ・演習(実技)	思考、判断、表現 ・定期考査(記述) ・演習(実技)	主体的に学習に取り組む態度 ・授業中の学習態度 ・提出物(演習印刷物)の提出			
担当者から受講上のアドバイス ・授業中の演習に十分な時間を取りますので理解を深めてください。 ・分からない部分は、その時間中に質問し、解決する癖を付けましょう。 ・印刷物の提出は、確実にいきましょう。 ・					

2 年間指導計画

学習時期(予定)	学習単元	学習単元内の内容のまとめり	備考
年度当初～5月中旬	私たちの生活と農業の情報化	情報社会における私たちの生活	
		情報とメディア	
		情報社会とモラル	
		農業を支える情報	
5月中旬～6月上旬	社会を支えるコンピュータ	コンピュータの仕組み	
		データや情報の表現	
		情報通信ネットワーク	
		インターネットの仕組み	
		情報セキュリティー	
6月上旬～3月下旬	コミュニケーションと情報デザイン	文書の作成と表現	
		データの集計と視覚化	
		画像・図形処理ソフトウェア利用	
		プレゼンテーション	
		情報発信(webページ)	

3 指導と評価の計画

(1) **単元：1章、私たちの生活と農業の情報化**

<u>単元の目標</u>		知識及び技術	思考力、判断力、表現力等			
<ul style="list-style-type: none"> データと情報、意思決定の過程を理解する。 情報社会の発展について理解する。 農業における情報の意義を理解する。 		<ul style="list-style-type: none"> 農業情報の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する能力を養う。 				
<u>観点別評価規準</u>						
知識、技術	思考、判断、表現	主体的に学習に取り組む態度				
①データや情報の重要性について理解できる。 ②現在、社会生活の中で生き抜くに必要な情報の大切さを理解できる。	①情報がいかに現代生活に必要なか判断できる。 ②データ・情報の正しい見方・処理方法を主体的に考えることができる。	①情報を正しく認識・処理して社会生活を改善していく態度を養う。				
<u>教材範囲</u>	<u>内容のまとめり I</u>	<u>学習時期 (予定)</u>	<u>配当時間</u>			
P 6～P 24	私たちの生活と農業の情報化	年度当初～5月中旬	6 時間			
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>	<u>観点別学習評価</u>			<u>備考</u>		
	知、技	思、判、表	態度			
	規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法
情報社会における私たちの生活	①	確認テスト	①	記録簿提出		
情報とメディア	①	確認テスト	①	記録簿提出	①	レポート
情報社会とモラル	①②	確認テスト	①②	記録簿提出	①	レポート
農業を支える情報	①	確認テスト	①②	記録簿提出	①	レポート

(2) **単元：2章、社会を支えるコンピュータ**

<u>単元の目標</u>		知識及び技術	思考力、判断力、表現力等			
<ul style="list-style-type: none"> ハードウェアとソフトウェアの概要を理解する。 オペレーティングシステムの役割と働きについて理解する。 		<ul style="list-style-type: none"> ハードウェアの仕組みを把握し、そのハードウェアを動かすオペレーティングシステムの役割について理解し、建設的に活用する能力を養う。 				
<u>観点別評価規準</u>						
知識、技術	思考、判断、表現	主体的に学習に取り組む態度				
①ハードウェアとソフトウェアの概要が理解できる。 ②オペレーティングシステムの役割が理解できる。	①ハードウェアとソフトウェアが一体になって情報を処理することが判断できる。 ②ハードウェアにとってオペレーティングシステムの必要性が判断できる。	①情報を正しく認識・処理して社会生活を改善していく態度を養う。				
<u>教材範囲</u>	<u>内容のまとめり I</u>	<u>学習時期 (予定)</u>	<u>配当時間</u>			
P 25～P 54	社会を支えるコンピュータ	5月中旬～6月上旬	6 時間			
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>	<u>観点別学習評価</u>			<u>備考</u>		
	知、技	思、判、表	態度			
	規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法
コンピュータの仕組み	①	確認テスト				
データや情報の表現	①	確認テスト				
情報通信ネットワーク	①②	確認テスト	①②	記録簿提出	①	レポート
インターネットの仕組み	①②	確認テスト	①②	記録簿提出	①	レポート
情報セキュリティー	②	確認テスト	②	記録簿提出	①	レポート

(3) **単元：3章、コミュニケーションと情報デザイン**

<u>単元の目標</u>		
知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 正確な情報収集と記録の重要性を理解する。 ・ 情報の受け手に配慮してまとめることの重要性を理解する。 ・ 情報を活用するソフトウェアについて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種、ソフトウェアの活用方法を理解し、農業情報に関する課題を解決する合理的かつ創造的に解決する能力を養う。 	
<u>観点別評価規準</u>		
知識、技術	思考、判断、表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ①情報の収集・処理を適切に行うことの重要性が理解できる。 ②情報を処理するためのソフトウェアの活用について理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①情報を適切に処理し、その結果から問題解決方法を主体的に考えることができる。 ②適切な情報処理をするソフトウェアの使用について判断できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①情報を正しく認識・処理して社会生活を改善していく態度を養う。

<u>教材範囲</u> P 5 8 ~ P 1 3 2	<u>内容のまとめり I</u> コミュニケーションと情報デザイン	<u>学習時期 (予定)</u> 6月上旬~12月中旬	<u>配当時間</u> 38時間				
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>	<u>観点別学習評価</u>						<u>備考</u>
	知、技		思、判、表		態度		
	規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法	
文書の作成と表現	②	確認テスト	②	作品提出	①	取り組み	
データの集計と視覚化	①②	確認テスト	①②	作品提出	①	取り組み	
画像・図形処理ソフトウェア利用	①②	確認テスト	①②	作品提出	①	取り組み	
プレゼンテーション	①②	確認テスト	①②	作品提出	①	取り組み	
情報発信 (web ページ)	①	確認テスト					

令和6年度（2024年度）シラバス

1 科目概要

教科 農業	科目 森で学ぶ	担当者（主） 中原・米村	履修年次（今年度） 1年	単位数（今年度） 2単位
履修対象 全員必履修	前学年からの 継続履修 -	次学年での 継続履修 有		
教材（出版社）	教科書 教科書なし、指導案をもとに授業展開	副教材 副教材なし		
定期考査の実施 ※ 変更可能性あり	1学期中間 ※5月中旬あたり -	1学期期末 ※7月上旬あたり 有	2学期中間 ※10月中旬あたり -	2学期期末 ※12月上旬あたり 有
学年末 ※3年：1月末 他：2月中旬あたり 有				
科目の目標 農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、地域資源の活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す				
知識及び技能 科目について体系的、系統的に理解する。関連する技術を身に付ける。	思考力、判断力、表現力等 自身の課題を発見し合理的かつ創造的に解決する力を養う。	学びに向かう力、人間性等（全単元共通） 学習した内容を社会生活で活用し社会貢献に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。		
具体的な評価の方法 定期考査と実技を中心に評価				
知識・技能 定期考査 実習	思考・判断・表現 定期考査 実習	主体的に学習に取り組む態度 実習（学習態度を含む） 提出物		
担当者から受講上のアドバイス 学習に主体的に取り組む学習を深めていきましょう。 実習は危険が常に隣り合わせです。気を引き締めて取り組みましょう。 日々の日誌を丁寧に書き、保存することで、3年間のポートフォリオを作りましょう。				

2 年間指導計画

学習時期（予定）	学習単元	学習単元内の内容のまとめ	備考
年度当初～6月中旬	アウトドアライフ	テント張り タープ張り	
6月下旬～7月中旬	山の生活文化	料理作り ガスの使用方法	
9月～12月	山の活用	竹の一輪挿し ストーンペイント	
1月～3月	山の文化	竹とんぼ作り 火打ち石の使い方	

(1) **単元：アウトドアライフ**

<u>単元の目標</u>		知識及び技能		思考力、判断力、表現力等			
・アウトドアについての知識・技術を理解し、実際にアウトドアライフができる。		学習で得た知識や経験を活かし、様々な野外活動に積極的にチャレンジし自ら考えて行動できる態度を養う。					
<u>観点別評価規準</u>							
知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
① アウトドアライフの基礎・基本を理解し、実際にアウトドアができる		① 仲間と協力して実施できるように、主体的な判断をすることができる。		① 自分の生き方に目を向け、意欲的に行動する能力と態度を養う。			
<u>教材範囲</u>		<u>内容のまとめり I</u>		<u>学習時期 (予定)</u>			
学習内容別プリント		アウトドアライフ		4月～6月			
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>		<u>観点別学習評価</u>				<u>備考</u>	
		知・技		思・判・表			
		規準	評価方法	規準	評価方法		
テント張り		①	確認テスト	①	プリント 計画・実施	①	取り組み
タープ張り		①	確認テスト	①	プリント 計画・実施	①	取り組み

(2) **単元：山の生活文化**

<u>単元の目標</u>		知識及び技能		思考力、判断力、表現力等			
・山での料理やガスの使用に関して知識・技術を理解し、実際に調理・使用ができる。		学習で得た知識や経験を活かし、様々な野外活動に積極的にチャレンジし自ら考えて行動できる態度を養う。					
<u>観点別評価規準</u>							
知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
① 山での調理やガスの使用方法について基礎・基本を理解し、実際にアウトドアができる		① 仲間と協力して実施できるように、主体的な判断をすることができる。		① 自分の生き方に目を向け、意欲的に行動する能力と態度を養う。			
<u>教材範囲</u>		<u>内容のまとめり I</u>		<u>学習時期 (予定)</u>			
学習内容別プリント		山の生活文化		6月～7月			
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>		<u>観点別学習評価</u>				<u>備考</u>	
		知・技		思・判・表			
		規準	評価方法	規準	評価方法		
山での調理		①	確認テスト	①	プリント 計画・実施	①	取り組み
ガスの使用方法		①	確認テスト	①	プリント 計画・実施	①	取り組み

(3) **単元：山の活用**

<u>単元の目標</u>		知識及び技能		思考力、判断力、表現力等	
山にある物(竹・石)の活用方法を理解し、様々な形に活用することができる		学習で得た知識や経験を活かし、様々な野外活動に積極的にチャレンジし自ら考えて行動できる態度を養う。			
<u>観点別評価規準</u>					
知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
① 竹や石の活用方法について基礎・基本を理解し、実際にアウ		① 仲間と協力して実施できるように、主体的な判断をすることができる。		① 自分の生き方に目を向け、意欲的に行動する能力と態度を養	

トドアができる	できる。	う。
---------	------	----

<u>教材範囲</u> 学習内容別プリント		<u>内容のまとめり I</u> 山の活用			<u>学習時期 (予定)</u> 9月～12月		<u>配当時間</u> 32時間	
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>	<u>観点別学習評価</u>						<u>備考</u>	
	<u>知・技</u>		<u>思・判・表</u>		<u>態度</u>			
	<u>規準</u>	<u>評価方法</u>	<u>規準</u>	<u>評価方法</u>	<u>規準</u>	<u>評価方法</u>		
竹の一輪挿し	①	確認テスト	①	プリント 計画・実施	①	取り組み		
ストーンペイント	①	確認テスト	①	プリント 計画・実施	①	取り組み		

(4) 単元：山の文化

<u>単元の目標</u>		
知識及び技能 竹や火打ち石に関する知識・技術を理解し、実際にアウトドアライフができる。		思考力、判断力、表現力等 学習で得た知識や経験を活かし、様々な野外活動に積極的にチャレンジし自ら考えて行動できる態度を養う。
<u>観点別評価規準</u>		
知識・技能 ① 竹や火打ち石の活用方法について基礎・基本を理解し、実際にアウトドアができる	思考・判断・表現 ② 仲間と協力して実施できるように、主体的な判断をすることができる。	主体的に学習に取り組む態度 ① 自分の生き方に目を向け、意欲的に行動する能力と態度を養う。

<u>教材範囲</u> 学習内容別プリント		<u>内容のまとめり I</u> 山の文化			<u>学習時期 (予定)</u> 1月～3月		<u>配当時間</u> 18時間	
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>	<u>観点別学習評価</u>						<u>備考</u>	
	<u>知・技</u>		<u>思・判・表</u>		<u>態度</u>			
	<u>規準</u>	<u>評価方法</u>	<u>規準</u>	<u>評価方法</u>	<u>規準</u>	<u>評価方法</u>		
竹とんぼ作り	①	確認テスト	①	プリント 計画・実施	①	取り組み		
火打ち石の活用	①	確認テスト	①	プリント 計画・実施	①	取り組み		

令和6年度（2024年度）シラバス

1 科目概要

教科 総合的な探究の時間	科目 緑の時間	担当者（主） 井上 典仁	履修年次（今年度） 1 年	単位数（今年度） 1 単位	
履修対象 全員必履修	前学年からの 継続履修 -	次学年での 継続履修 -			
教材（出版社）	教科書				
	副教材				
定期考査の実施 ※ 変更可能性あり	1 学期中間 ※ 5 月中旬あたり -	1 学期期末 ※ 7 月上旬あたり -	2 学期中間 ※ 1 0 月中旬あたり -	2 学期期末 ※ 1 2 月上旬あたり -	学年末 ※ 3 年：1 月末 他：2 月中旬あたり -
科目の目標 探究の見方・考え方を働かせ、自己実現に向けて探究することを通して、自他の思いや個々人の尊厳を重んじ、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。					
知識及び技能 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題解決に向けた取り組み方を探り、探究の意義や価値を理解するようにする。	思考力、判断力、表現力等 実社会や実生活、他者と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。	学びに向かう力、人間性等（全単元共通） 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。			
具体的な評価の方法 3つの観点について、それぞれに示す方法で評価する。					
知識、技能 ・ノートやレポート等における記述 ・行動観察	思考、判断、表現 ・ノートやレポート等における記述 ・行動観察 ・生徒の自己評価や相互評価	主体的に学習に取り組む態度 ・レポート等の記述 ・行動観察 ・生徒の自己評価や相互評価			
担当者から受講上のアドバイス 進路活動を踏まえた自己実現活動のスキルを身に付けることを目標とします。自分と向き合うことを通して、相手とのコミュニケーションスキルを磨いたり、自分の興味・関心に照らした課題解決活動の方法を体験的に学んでいきましょう。新たな自分の可能性を発見するための学習です。					

2 年間指導計画

学習時期（予定）	学習単元	学習単元内の内容のまとめ	備考
年度当初～7月下旬	自分を知る、相手を知る	<ul style="list-style-type: none"> 今の自分を理解する これからの自分について考える 自分のことを相手と伝え合う 	
8月下旬～12月下旬	自己実現に向けた探究活動Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ちょこプロ 協働的なプロジェクト活動 	
1月中旬～年度末	自己実現に向けた探究活動Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> マイプロジェクト（進路活動） 	

(1) 単元：自分を知る、相手を知る

<p><u>単元の目標</u></p> <p>知識及び技能 自分自身や他者と関わる探究の過程において、課題の解決に必要な知識および技能を身に付け、自分の在り方生き方について探究することの意義や価値を理解する。</p>		<p>思考力、判断力、表現力等 自分自身や他者との関わりの中で、自分の在り方生き方について課題解決のための情報を収集し、実社会や実生活との関連を考えながらそれらを整理・分析し、まとめた内容を効果的に発信することができる。</p>	
<p><u>観点別評価規準</u></p> <p>知識、技能 ①自らを客観的に見つけ、自分の在り方について理解している。 ②相手に自分の事をうまく伝えることができる。 ③多様な生き方や価値観があることについて理解を深めている。 ④相手が伝えたい情報を正しく収集し、整理することができる。</p>		<p>思考、判断、表現 ①今の自分の在り方生き方を見つめ、今後の人生について問題を見いだして課題を設定している。 ②他者の多様な考えや立場を理解し、相手の意見や行動に触れ、自分の考えを正確に伝えることについて考え、工夫している。 ③自らの思考や感情を整理し、自分の置かれている状況を受けとめ、自分の目標や成長のために解決策を実践し、それを評価したり改善したりしている。 ④自己実現に向けた一連の活動について、考察したことを根拠に基づいてまとめ、表現している。</p>	
		<p>主体的に学習に取り組む態度 自己の在り方生き方について、課題解決のために主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい人生を実現しようとしている。</p>	

<u>教材範囲</u>		<u>内容のまとめり I</u>		<u>学習時期 (予定)</u> 年度当初～7月下旬		<u>配当時間</u> 12時間	
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>	<u>観点別学習評価</u>						
	<u>規準</u>	<u>知、技 評価方法</u>	<u>規準</u>	<u>思、判、表 評価方法</u>	<u>規準</u>	<u>態度 評価方法</u>	<u>備考 (学習課題等)</u>
1 自分を知る	①	・ノートやレポート等における記述 ・行動観察	①②	・ノートやレポート等における記述 ・行動観察 ・生徒の自己評価や相互評価	・ノートやレポート等における記述 ・行動観察 ・生徒の自己評価や相互評価		・お題に準じて、思いつく言葉を出し尽くそう ・「私は」に続く文言を考え、自分を言葉で表そう
2 自分について相手に伝える	②						・自分について情報整理しよう ・自分の事を相手に一言で伝えよう
3 自分の今後について考える	③						・ライフプランを考えよう ・先生達のこれまでの生き方を知り、自分のライフプランを再度見直そう ・自分のライフプランを先生達に伝えて感想を聞こう
4 相手について知る	③						・相手をよく知るための質問を考えよう ・楽しく話せる関係づくりについて考えよう
5 自分を伝え、相手を知る	②④						・他校の生徒と交流しよう ・自分の学校を紹介し、相手のことについて知ろう
6 まとめ							・これまでの取り組みを振り返り、自分についてのウェビングマップを作成しよう

(2) **単元：自己実現に向けた探究活動 I**

<u>単元の目標</u> <p style="text-align: center;">知識及び技能</p> 自分自身の興味・関心に関わる探究の過程において、課題の解決に必要な知識および技能を身に付け、自分の在り方生き方について探究することの意義や価値を理解する。		<p style="text-align: center;">思考力、判断力、表現力等</p> 自分自身の興味・関心について、それらの課題解決のための情報を収集し、実社会や実生活との関連を考えたしながらそれらを整理・分析し、まとめた内容を効果的に発信することができる。
<u>観点別評価規準</u>		
<p style="text-align: center;">知識、技能</p> ①自分の生活を振り返り、よりよく過ごすために必要な取組について、情報の収集・整理ができる。 ②自分の生活をよりよくするために課題を設定し、解決するためのプランを立てることの意義を理解している。 ③取り組みをする中で、他者の意見を聞くことの重要性について理解している。 ④他者と協力し、課題を解決するために必要な情報の収集・整理ができる。	<p style="text-align: center;">思考、判断、表現</p> ①自分の身近な生活、あるいは地域において、興味・関心を持ち、問題を見いだして課題を設定している。 ②設定した課題についての取り組み方について、自分やペアの実情に合ったやり方を考え、クフしている。 ③課題解決に向けた取り組みについて、他者の取組と交流することで、自らの実践を評価したり、改善したりしている。 ④自らが設定した課題について、その解決に向けた一連の活動について考察したことを根拠に基づいてまとめ、表現している。	<p style="text-align: center;">主体的に学習に取り組む態度</p> 自分自身の興味・関心について、課題解決のために主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、他者と交流しながら自らの取り組みに新たな価値を創造し、自分や地域の充実向上を図るために課題解決しようとしている。

<u>教材範囲</u>	<u>内容のまとめり I</u>	<u>学習時期 (予定)</u> 8月下旬～12月下旬	<u>配当時間</u> 15時間
-------------	------------------	--------------------------------	---------------------

学習活動、学習のねらい、学習形式等	観点別学習評価						備考 (学習課題等)
	知、技		思、判、表		態度		
	規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法	
1 ちょこプロ (2週間程度)	①②		①				・自分の生活で改善したいこと、実現したいことの中から、課題設定し、取り組もう ・中間発表 ・みんなからアドバイスをもらって、自分の取り組みに生かそう ・ちょこプロ発表会を実施しよう
2 協働的なプロジェクト活動	②③④	・ノートやレポート等における記述 ・行動観察	①②	・ノートやレポート等における記述 ・行動観察 ・生徒の自己評価や相互評価		・ノートやレポート等における記述 ・行動観察 ・生徒の自己評価や相互評価	・自分たちの生活や地域で興味・関心があることの中から、課題設定し、ペアで協力して課題解決に取り組もう。 ・中間発表 ・みんなからアドバイスをもらって、自分の取り組みに生かそう ・発表会を実施しよう
4 まとめ							

(3) 単元：自己実現に向けた探究活動II

<p><u>単元の目標</u></p> <table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">知識及び技能</td> <td style="text-align: center;">思考力、判断力、表現力等</td> </tr> <tr> <td>自分の希望する進路を把握し、それを実現するための探究の過程において、課題の解決に必要な知識および技能を身に付け、自分自身の可能性に気づき、それを探究することの意義や価値を理解する。</td> <td>自分の進路を把握し、その実現のために情報を収集し、実社会や実生活との関連を考えながらそれらを整理・分析し、まとめた内容を効果的に発信することができる。</td> </tr> </table>		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	自分の希望する進路を把握し、それを実現するための探究の過程において、課題の解決に必要な知識および技能を身に付け、自分自身の可能性に気づき、それを探究することの意義や価値を理解する。	自分の進路を把握し、その実現のために情報を収集し、実社会や実生活との関連を考えながらそれらを整理・分析し、まとめた内容を効果的に発信することができる。																	
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等																					
自分の希望する進路を把握し、それを実現するための探究の過程において、課題の解決に必要な知識および技能を身に付け、自分自身の可能性に気づき、それを探究することの意義や価値を理解する。	自分の進路を把握し、その実現のために情報を収集し、実社会や実生活との関連を考えながらそれらを整理・分析し、まとめた内容を効果的に発信することができる。																					
<p><u>観点別評価規準</u></p> <table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">知識、技能</td> <td style="text-align: center;">思考、判断、表現</td> <td style="text-align: center;">主体的に学習に取り組む態度</td> </tr> <tr> <td> ①自分を見つめ、「できること」と「やりたいこと」の現状を把握し、自分の進路実現に向けて必要なスキルを獲得するための情報の収集・整理ができる。 ②自分の進路について、必要な情報の収集・整理ができる。 ③自分の進路実現や課題解決のためには、他者の協力が必要であることの理解を深めている。 </td> <td> ①自分の進路実現のために、自らの現状を把握し、必要なスキル獲得に向けて問題を見だし、課題を設定している。 ②進路実現のために必要なスキルアップに向け、工夫している。 ③進路実現のために、他者と協力し、自分の取り組みを客観的評価したり、改善したりしている。 ④自らが設定した課題について、その解決に向けた一連の活動について考察したことを根拠に基づいてまとめ、表現している。 </td> <td> 自分の進路実現のために、課題解決のために主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、他者と交流しながら、自らの取り組みに新たな価値を創造し、自分や地域の充実向上を図るために課題解決しようとしている。 </td> </tr> </table>		知識、技能	思考、判断、表現	主体的に学習に取り組む態度	①自分を見つめ、「できること」と「やりたいこと」の現状を把握し、自分の進路実現に向けて必要なスキルを獲得するための情報の収集・整理ができる。 ②自分の進路について、必要な情報の収集・整理ができる。 ③自分の進路実現や課題解決のためには、他者の協力が必要であることの理解を深めている。	①自分の進路実現のために、自らの現状を把握し、必要なスキル獲得に向けて問題を見だし、課題を設定している。 ②進路実現のために必要なスキルアップに向け、工夫している。 ③進路実現のために、他者と協力し、自分の取り組みを客観的評価したり、改善したりしている。 ④自らが設定した課題について、その解決に向けた一連の活動について考察したことを根拠に基づいてまとめ、表現している。	自分の進路実現のために、課題解決のために主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、他者と交流しながら、自らの取り組みに新たな価値を創造し、自分や地域の充実向上を図るために課題解決しようとしている。															
知識、技能	思考、判断、表現	主体的に学習に取り組む態度																				
①自分を見つめ、「できること」と「やりたいこと」の現状を把握し、自分の進路実現に向けて必要なスキルを獲得するための情報の収集・整理ができる。 ②自分の進路について、必要な情報の収集・整理ができる。 ③自分の進路実現や課題解決のためには、他者の協力が必要であることの理解を深めている。	①自分の進路実現のために、自らの現状を把握し、必要なスキル獲得に向けて問題を見だし、課題を設定している。 ②進路実現のために必要なスキルアップに向け、工夫している。 ③進路実現のために、他者と協力し、自分の取り組みを客観的評価したり、改善したりしている。 ④自らが設定した課題について、その解決に向けた一連の活動について考察したことを根拠に基づいてまとめ、表現している。	自分の進路実現のために、課題解決のために主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、他者と交流しながら、自らの取り組みに新たな価値を創造し、自分や地域の充実向上を図るために課題解決しようとしている。																				
<p><u>教材範囲</u></p>	<p><u>内容のまとめり I</u></p>	<p><u>学習時期 (予定)</u></p> <p>1月中旬～年度末</p>	<p><u>配当時間</u></p> <p>8 時間</p>																			
<p><u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u></p>	<p><u>観点別学習評価</u></p> <table border="1"> <tr> <th colspan="2">知、技</th> <th colspan="2">思、判、表</th> <th colspan="2">態度</th> </tr> <tr> <th>規準</th> <th>評価方法</th> <th>規準</th> <th>評価方法</th> <th>規準</th> <th>評価方法</th> </tr> <tr> <td>①②</td> <td>・ノートやレポート等における記述 ・行動観察</td> <td>①② ③④</td> <td>・ノートやレポート等における記述 ・行動観察 ・生徒の自己評価や相互評価</td> <td></td> <td>・ノートやレポート等における記述 ・行動観察 ・生徒の自己評価や相互評価</td> </tr> </table>			知、技		思、判、表		態度		規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法	①②	・ノートやレポート等における記述 ・行動観察	①② ③④	・ノートやレポート等における記述 ・行動観察 ・生徒の自己評価や相互評価		・ノートやレポート等における記述 ・行動観察 ・生徒の自己評価や相互評価	<p><u>備考 (学習課題等)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の「できること」「やりたいこと」を踏まえ、進路希望を把握しよう ・進路に関する情報の収集方法を知ろう ・進路実現のために必要なスキルを把握しよう ・進路実現のためのスキルアップに取り組もう ・中間発表 ・みんなからアドバイスをもらって、自分の取り組みに生かそう ・発表会を実施しよう
知、技		思、判、表		態度																		
規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法																	
①②	・ノートやレポート等における記述 ・行動観察	①② ③④	・ノートやレポート等における記述 ・行動観察 ・生徒の自己評価や相互評価		・ノートやレポート等における記述 ・行動観察 ・生徒の自己評価や相互評価																	
<p>まとめ</p>																						